

# 山梨共修社創立百二十周年記念誌

公益財団法人山梨共修社





小石川区宮下町時代の寮舎



合同ハイキング



ダンスパーティー



一世代前の旧木造寮舎全景





表札





卒寮記念写真(昭和年代)



旧木造寮舎の内部





1984年11月17日 社友会



現寮舎前での卒業写真



現在の寮舎の全景

公益財団法人山梨共修社創立百二十周年記念誌

もくじ

182	173	170	166	160	144	132	128	94	70	66	12	10	8	6	4
あ	資	山	「	新	東	イ	座	寄	寄	記	1	1	お	お	理
と	料	梨	廊	型	京	ン	談	稿	稿	念	2	2	祝	祝	事
が	編	共	下	コ	タ	タ	会	者	文	講	0	0	い	い	長
き		修	の	ロ	ワ	ビ	を	座		演	周	年	の	の	あ
		社	匂	ナ	ー	ュ	終	者		進	年	記	の	山	い
		と	い	ウ	リ		え	座		記	念	念	言	梨	さ
		は	い	イ	バ	中	て	談		録	演	演	葉	県	つ
		？	」	ル	イ	村		会			会	会	山	知	つ
				ス	バ	前		感			長	長	梨	事	
				感	イ	理		想					人		
				染	バ	事		文					会		
				の	バ	事							連		
				出	ル	事							合		
				来	ス	事							会		
				事	感								会		
					染								長		
					の										
					出										
					来										
					事										

〈注釈〉

- 本記念誌において、一般的な呼び方「舎監」ではなく「社監」を使用しています。
- 寄稿者などの記述の中、未成年飲酒等について推定されるが、現在の寮では法令順守の大原則のもと、適切に管理運営されています。
- 寮生の学年表記は寄稿、発言時点の学年で表記しています。

明治35年山梨共修社設立時に定められた綱領は次の通り。

- 一、学生タルノ本分ヲ全ウシ立身報国ヲ期スヘキコト。
- 一、自重廉恥ノ心ヲ持ジ信義節操ヲ守ルヘキコト。
- 一、識見ヲ高尚ニシテ学芸ノ進歩ヲ致スヘキコト。
- 一、共同自治ノ精神ヲ体シ積善ノ道ヲ尽スヘキコト。

平成25年に公益財団法人の認可を得るために定めた定款に記載されている目的は次の通り。

『主として山梨県及び山梨県出身者の子弟の奨学を図り、もって社会有為の人財を育成すること』



## 公益財団法人山梨共修社 創立百二十年の節目を迎えて

理事長 高野 孫左エ門

公益財団法人山梨共修社は「次代を担う山梨県出身子弟の奨学を図る、社会有為の人財を育成する」との一貫した理念の下での運営を積み重ね、令和四(二〇二二)年二月、設立から百二十年目の節目を迎えることができました。

これまでに山梨共修社を巣立った社友は約千名。政官界・法曹界・財界・学術／芸術領域に多くの人財を輩出し、それぞれが社会のためになる活躍を積み重ねられ、その成果は私たちにあって誇るべき財産となっています。

明治三十四(一九〇二)年に興った満田寛一氏、田邊治通氏、八巻良三氏の三氏による郷土出身者のための「学生寄宿舎」設立運動は、当時の在京有力者である八巻九萬氏、佐



竹作太郎氏、根津嘉一郎氏を動かし「山梨共修社」を誕生させました。

その想いを示した「共修社の理念」は変わることなく今に受け継がれています。

また、明治から令和に至る時の流れの中で「共修社」は自然災害や戦争など、社会環境を大きく変える多くの困難に直面しながらも、課題を解決し難局を乗り越えてまいりました。これは、社友のみならず、共修社の活動をご理解・ご支援くださる皆様の力に支えられてきたからこそ実現できたことと確信いたしております。

寮生には改めてこのような経過を認識し、「自治」に携わる経験から得る学びや、互いに支えあうことによって生ずる「利他」の心の涵養など、「共修社」ならではの体験を自らの力とし、社会の中で役立つ人材としての活躍が期待されております。

百二十年の節目を迎えた今、このような学生寮の存在を持続させていくためには、今まで以上に多様な視点や多様な価値観を持つ力強い運営力が求められる事になります。

社友各位や山梨に関わりを持つ多くの方々と繋がる「山梨ネットワーク」を改めて築くことにより、山梨共修社の基盤強化にむけての取り組みを進めることができますよう、多くの皆様のご理解とご協力を賜りますことをお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



## お祝いのことば

山梨県知事 長崎 幸太郎

公益財団法人山梨共修社が創立百二十周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

山梨共修社は山梨県出身者のための学生寮として明治三十五年に設立されて以来、学生自治による共同生活を通し、教養や専門知識や能力を兼ね備えた優れた人材を輩出され、百二十年の歴史を築いてこられました。

千人を超える卒業生の皆様は、様々な分野において活躍され、社会の進展に大きく寄与されているところです。

これは、歴代の理事長をはじめ関係者の皆様が、その使命に熱意と誠意を持ち、積極

的に取り組んでこられた素晴らしい成果であり、深く敬意を表します。

さて、私たちを取り巻く社会の変化は著しく、特にデジタル化はグローバルな規模で急速に幅広く影響を及ぼしております。新たな時代に求められる人材を見極め、育成する環境を整備していくことは、企業のみならず、行政においても重要な課題であります。

本県では「教育」を社会の基礎条件の一つと位置づけて取り組んでおり、働き手に対する人材教育もその重要な柱であります。誰一人取り残さず、働いている方、働く意欲のある方全てに能力開発の機会を提供できるよう、今後具体的な実行に結びつけていきたいと考えております。

現役の寮生の皆さんも、学生自治による共同生活で共に支え、高め合い、充実した学生生活を過ごされ、卒業後、新たな時代に求められる人材として、山梨県はもとより国内外で活躍されることを、心から期待しております。

結びに、山梨共修社が百二十年の歴史を礎に、新たな時代に向けさらなる飛躍を遂げられ、大いに発展されることを祈念し、お祝いのことばといたします。



## 山梨共修社創立120周年に寄せて

山梨県人会連合会会長 清水喜彦

山梨共修社創立百二十周年心よりお祝い申し上げます。

一概に120年と言っても、明治、大正、昭和、平成そして令和と色々な時代の難局を乗り越え、且つ日本国内外において活躍されてこられた千名以上の卒業生を輩出されたこと、本当に素晴らしいことだと思います。

私は、山梨県人会連合会の会長に就任し、初めて当寮の存在を知りました。何故私が大学進学のために上京した時に知り得なかったのか、何故当寮の存在をもっと積極的に宣伝しておられなかったのかと、非常に残念に思ったものです。存じ上げておれば、私の大学生活は違ったものになっていたであろうと残念でなりません。ついては、県人

会連合会としても、当寮の存在をしっかりとアピールして行きたいと考えています。

当寮から育っていかれる方に、又これから当寮に入寮される方に、お願いがあります。

①当寮での共同生活を通して自分とは異なる考え方、違う行動がある事を知り、これを受け入れる事。

②学生時代に自分の好きなこと、打ち込めることを早く見つける事。

③感謝の念を忘れない事。この三点を心に留め置いて頂ければと思います。

現在の寮費は月額三万円と伺っております。私の学生時代でも、食事無しとしても三万円での東京生活は厳しいものでした。是非この機会をフル活用して学生生活から多くのことを学び、経験し、それを自分のものとしてください。そして、その事への感謝の気持ちを故郷山梨に、又後輩たちに向けてください。お願いします。

当寮の良き伝統が一層発展されていきますことを祈念しております。

## 公益財団法人山梨共修社沿革

## 120年のあゆみ

明治35年2月

東京帝国大学法科大学生満田寛一（みつだ かんいち）氏、第一高等学校生徒田邊治通（たなべ じつう）氏、後の医学博士八巻良三（やまきりょうぞう）氏の三氏が『山梨（甲斐）は幕府直轄地であったことから何かと纏まりが悪く、他県にはある旧江戸藩邸跡地等を活用しての学生寄宿舎の如きもなく、設立の試みも物に為らなかつた』とのことから、三人で設立運動を行うべく合意に達し、八巻九萬（やまきくまん）氏（第二代山梨県議会議長、第一回衆議員選挙による代議士を歴任）に相談し同氏を発起人とし、賃借していた下宿（本郷区駒込蓬萊町6番地）の下宿屋を買い取り、山梨共修社（命名は八巻九萬氏）を創立。

その際の設立小委員会メンバーは、八巻九萬・佐竹作太郎・根津嘉一郎の三氏。第一期の寮生は25名。

大正2年7月

文部大臣の許可を得て財団法人となる。

大正5年2月

大正4年より着手の改築拡張案実現に向け、山梨県内外の有力者からの寄付を募り土地800坪（小石川区宮下町62番地）を購入、翌大正6年5月52名収容の寮舎が竣工し移設。

大正12年

在寮生の発議により、卒業生との連絡を執り社運の隆盛を図ることを目的に、年に2回の「社報」発刊を開始。その後中断し、昭和39年に再刊。

昭和20年5月

大正6年建設の寮舎が東京空襲（山の手空襲）にて焼失。

昭和26年

在京県人会連合会会長広瀬久忠氏を中心に再興運動が行われ、山梨日日新聞社社長野口二



昭和27年	郎氏、山梨県知事天野久氏への呼びかけをきっかけに再建に着手。 東京都区画整理委員会よりの代替地(文京区千石四丁目九番1号)に新たな寮舎(内藤多仲博士設計)を建設着工、28年12月に竣工し移動。この時の寮舎は26名。
昭和32年	甲府出身の実業家坂本正三郎氏米国視察の折「教育の大切な事を深く感得し、共修社の増設を一人で行う」との決意からの寄付により、第二寮舎「坂本寮」が竣工し、寮生定員が51名となる。(これを記念した坂本翁像が寮に残されている)
昭和39年	共修社社報「山梨の花」が再刊(年一回発刊)され、その第一号に社友前嶋信次氏が在寮中に作詞した「山梨共修社寮歌」が掲載。その後休刊となり現在に至る。
昭和59年3月	戦後建築の木造二階建て寮舎及び坂本寮が老朽化のため昭和57年開催理事会で、新たに鉄筋コンクリート四階建ての寮舎(50名収容)の建築が決議され着工し58年12月に竣工。法人所有の事業用地111坪の土地売却費を建築費用に充てた。3月、新寮再開。
昭和61年11月	創立85周年記念事業として「社友名簿」の刊行を実施。
平成14年10月	創立100周年記念式典を挙行。記念事業として、式典の挙行、寮舎内外のリニューアル工事、記念誌の刊行を実施。
平成24年5月	創立110周年記念式典を挙行。
平成25年4月	公益財団法人(東京都教育委員会認可)としての登記を行う。
令和3年11月	創立120周年記念講演会を開催。
令和4年11月	創立120周年記念誌の刊行を実施。

## 山梨共修社創立120周年 記念講演会記録

〈講師〉

山梨県人会連合会会長 清水喜彦

2021年11月20日 於 山梨共修社

ご紹介いただきました清水喜彦です。離れているのでマスクを外させていただきました。こんな顔と声です。

最近の若い方はインターネットで調べていると思いますので、「親分」だとか「鬼軍曹」だとか、「清水喜彦」とひっぱりと出てきます。実際はこういう顔をした「やさしいおじさん」(笑)です。

銀行の法人営業に関してはいろいろな評判もありますが、「まじめな人生を送った」と本人は思っています。

今回はこのテーマ「今、社会で求められている人材とは」に沿ってお話をさせていた

できますが、先にいくつかお話をさせていただきます。

ひとつ目、私が今からお話しすることは、「私は正しいと思っています」。しかし、あとでドライバーシティのところでもお話ししますが、「正しさ」って、ひとつじゃないんです。「人によって、立場によって正しきは全部変わる」。

今日、私が話した事の中で、気に入ったこと、なるほどな、と思ったことはメモをしてそれを真似したらいいと思いますし、違うとおっしゃるんだったら、それは無視していただいて構いません。なぜかというと、社会に出るといろんなことがありますから。ぜひ自分をしっかりと創っていただければと、そのお役に立ってるのであればと、今日、時間をいただきました。



ところでメモの形式なんですけれども、ぼくはいろんなところで講演の依頼を受けてやるんですけども、必ず標題だけ置いて「自分で書いてくれ」と。人によって、経験によってピンポイントが違いますので、「自分の気に入ったポイントだけ書いてくれ」というつもりです。何より手を動かさないと、眠るんです(笑)。実は入社式でも「寝ているやつは出ていけ」と。「俺は君たちから金をもらっていない、眠るくらいだったら不愉快だから出て行けと、出ていったことも文句は言わない」と。なぜなら「自分で自分に責任をもってもらおう」しかないんです。

自己紹介からさせていただきますと、生まれは1955年、昭和30年。「戦後は終わった」といわれた年に、山梨県の甲府で生まれました。親父は国鉄職員です。で、今も入口で文句を言っていたんですけども、「大学に入るときに、この(共修社の)存在を知っていたら、僕は苦労せずに済んだ」と。ここに入っている皆さんにはちょっと、恨み辛みも含めてうらやましいなど。なぜかというところと高校2年生の時に親父がくも膜下で倒れて、就職するか大学行くか迫られた時期があって、偶然、早稲田の商学部第一回の推薦入学がちょうど始まった時期で、親父の倒れたのを知ってたんで、後に教育長をや

られた加藤先生が担任だったんですけども、先生が推薦を出してくれました。学生時代はやんちゃもしてましたんで、夏でも学ランを着て、冬でも裸足で下駄をはいて突っ張っていた。ある意味、甲府一高でも有名だったんで、早稲田だったらこんなもんだなというところで推薦をもらって入ったもんですから、当然、仕送りもないし、入学金もなかった。アルバイトで食わなきゃいけないかったんで、ほとんどアルバイト生活でした。この寮があることを知ってりゃあ、そこまで苦労しなくて、その金でちょっとは違った人生を送れたかなと思っています。いま県人会連合会会長としては、この寮の存在をあらゆるところで言っている。やっぱり東京へ出てくるとお金がかかりますので。

正直言って。大学4年生の時、自分で塾を開いて、月に50万くらい稼いでいました。早稲田に入って、1978年、当時の住友銀行に入りました。さきほど島田さん(理事)からご紹介がありましたけれども、就職時にゼミの青木先生に相談したところ、「商社に行ったらみんな君だ。銀行へ行ったら君は珍しいタイプだから、成功するか失敗するかどちらかだよ、チャレンジしてみるかい」と言われて入行しました。

諸君に先に言っておきます。僕は銀行に入って2年目にちょっと男気からかれて当時の副支店長をなぐって、飛ばされたんです。「殴るなよ」(笑)。うちの息子も弁護士になって就職したときに、妻が「あんた父親としてなんか言いなさいよ」っていうものだから、息子を呼んで「社会人になったらいろんな苦労がある。だけど上司は殴るな。苦労するから」と言ったら、うちの息子は言いましたね。「親父、安心しろ。普通のやつはそんなことはしない。」あとで妻から「あんたもつとまともなことを言いなさいよ」と怒られたんですけど。我慢も必要になると思いますよ。

その後、順調に銀行で法人営業ということをやっていました。現場の支店長や法人部長を4店、10年ほどやらせていただいて、統括部長になって、常務、専務、副頭取と無事に務めさせていただいて、副会長からいまの証券会社に出向することになりました。社長、会長をやらせていただいて、サラリーマン社会ですから年次送りで今年の4月から顧問をやらせていただいています。そのなかでいろいろ気がついたこと、思ったことを皆さんにお話しをさせていたかどうかと思います。



折角なので、そうは言っても現状、いまの社会の現状を経済についても、皆さんも興味あるでしょうからちょっとお話しさせていただこうかと思えます。本来はこれが私の本業ですから。島田さんほどテレビで説明できるほど論理的ではないんですけど、現状、社会と経済に分けてみました。

社会については三不の時代だと思っています。明快に3つの「不」、まず「不安定」です。「不確実」、先が見えない「不透明」だと。何で三つの「不」が存在しているかという、(理由は)三つほどあると思います。ひとつ目は多くの国のトップが不安定だということ。トップに対する先見といったらいいんでしょうか。アメリカも中国もロシアもヨーロッパ各国もあらゆる国のトップが、国の中の政権が不安定になっている。

そういう意味では、世界的に著名なある実業家とお付き合いがあって、彼と話をしたときに、いまから6、7年前ですか、8年前かな。彼が「日本とは不思議な国だ」と、言っていました。なぜかという、当時政権が、1年ごとにばたばたと代わっていました。8年ほど、6年ほどかな。(政権が)代わっている時代でした。1年で政権が代わる、それが6、7年も続く。世界の標準で行くと「内乱状態」です。が、何のトラブルにもならな

い。「ミステリアス・ジャパン」だ。

10年前の東日本大震災、あのときあんなことが起こった。アメリカや中国だったら暴動、略奪だと。東南アジアやアフリカだったら疫病が流行る。助け合って、しっかりと立ち直っている。「ファンタスティック・ジャパン」だ。

日本は借金大国だといっているけど、国債、国の借金ですけど、これがこんなに多い、世界でも有数の借金の多きなんです、その借金を買ってくれているのが他国ではなくて、自国の国民だ。日本は税金を先取りしているだけじゃないかと。つまり政治的にも心情的にも非常に安定している、災害に対して助け合って生きる、国の債券、経済が悪いといっても自国で成り立っている。こんな国は世界でも日本だけだと。だから「有事になったら、ドル買いじゃない、円買い」だと。これが彼の台詞でした。

事実、世界各国の政権がばたばたすると、当時は円買いに走っていました。なぜかというところ、有事は「ドル買い」だったんです昔は。ところがアメリカが軍事力だけではないとかなる時代ではなくなってきたところで、いちばん安定している、投資しても安全

な円に換える。特にヨーロッパ、ギリシャの国債の危機がありました。ユーロが暴落して、これにつられてドルも暴落して、いちばん安全な円に換える。ところが円は安全な代わりに利回りがたたない。だからやばいと思ったなら、ゼロになっちゃう可能性があるから円に換えた。ところが大丈夫だと、利回りが戻ったらすぐに利息のつかない円ではなくて、ドルやユーロに戻してしまう。有事になると円高になって、平時になると円安。これはあとで言いますが、今の状況とは、ちょっと要因が違います。

各国のトップが非常に不安定だと、国内での政権が不安定になるとどうなるか。歴史が証明している。外に対して強く出ないと内部がもたない。その結果、米中の関係が悪化するんですよ。非常にシビアになる。以前に統合幕僚長を務めていたある知人が言っているのは、もう米中はいつ何が起こっ



でもおかしくない。全面戦争にはならないだろうけど、台湾海峡でちょっとしたトラブルが起こったらお互いに引つ込めない。なぜかというと、引つ込んだら国内がもたない。それぞれの。非常に微妙なバランスの上でやっている。これが1つ目。

2つ目は皆さんも、マスコミなんかでもよく聞いておられるだろうけれど、気候変動が激しくなります。人間の種としての存在を脅かしかねない所まで来ていますので、気候変動がひとつ大きなリスクとなってくる。

3つ目が今のコロナを中心としたパンデミックの問題。ああいうウイルスも自分たちの生存を懸けているわけですよ。いい薬を作れば、それに勝つような強さをウイルスが持つてくる。という意味でのパンデミック。これらの3つの結果、非常に社会が不安定、不透明、不確実になっています。その中で経済に関してはつきり言います。このまま外に出して言うなよ。まずいから。

私は、今の株式市場はバブルだと見ています。いつはじけてもおかしくない。我々

の試算でいうと、今の経済状況の中で日経平均が、2万8000円〜9000円、「あほとちゃうか」と。もう2万円を切ってもぜんぜんおかしくない。じゃあなんでこんなことになっているのか。統計は少し古いですけど、この3年間、2018年、2019年、2020年、この3年間で各国政府が財政出動しています。これはもう6000兆円以上、景気対策やコロナ対策と言うことでばらまいています。いま、去年のあれも（コロナ対策費）無駄に使われているということもあるんですけど、それは別にして、世界中で6000兆円のお金がばらまかれている。それなのに金融緩和ということで、700兆円以上、統計が少し古いで、ひょっとしたら1000兆円を超えているかも、つまり8000兆円のお金がばらまかれている、現実に、世の中に。

ところがこのばらまかれたお金がいくところっていうのは、君らの小遣いにはまわらないんだよ。そういうレベルではなくて、行く先は4つしかないんです。ひとつは株、そして債券、商品（石油、麦などの食料）4つ目は不動産。この4つにしか大きなお金は流れないんですよ。

特にファンドと呼ばれる、みんなから金を集めて運用して戻す人たち、この4つしかお金が流せない。その中で3番目にいった商品が、いままでリーマンショックの時

は石油に流れていたんですよ。だから高野(理事長)さんなんかは覚えておられると思いますけど、リーマンショックの時は、バレル150ドル、いまはせいぜい80ドルから、このところ増産していないので上がってきてはいますけれどもそこで止まっている理由はなぜか、投資家が石油に投資をすると悪人と言われてしまう。SDGsの問題が大きい、SDGsでイーブンカーボンにしなければいけない、化石燃料を控えなければいけないといっているところに、ここで儲けると、それこそ後ろ指を指されてしまう。なかなか石油に投資できない。食料もそうなんですよ。これだけ飢えている人たち、食糧危機の所もあるのに、それで貴様ら稼ぐのかと言われると金を投資している投資家の人たちも立場がないものだからあんまりそれを推奨しない。その結果、商品になかなか投資ができない。



4番目の不動産はというと、東京の青山、銀座だとか原宿だとか、世界の人たちが知っている場所はどんどん値が上がっていく。ところが山梨は、ぼくも母親が亡くなったら処分しようと思っているが、固定資産税分でもない。ちょっと待ってくれよと。小さな山があったんですけど、二束三文どころか買手がつかない。林業組合に寄付するぞといっても「いらぬ」。なぜかというところ、その山を整備する人が足りない。ぼつんと飛んだ所をもらっても迷惑なだけだという。しょうがない隣りの山の地主にただでやるから一緒にもって言ってくれと言った。なぜかというところ、売買には境を確定する必要がでてきて、それで数百万かかると、赤字になっちゃうから。おじさん隣りの家だからそのままもって行ってくれということをやったときばけました。そんな状態で不動産も特定のエリアしかお金が入らない。

じゃあ2番目にいった債券。これは株に比べて、どちらかというと安全です。だけど金利がたたない。先ほどいった金融緩和、ゼロ金利って聞いたことある、マイナス金利も聞いたことあると思いますけど、これは経済学部のひとつもそうじゃない人も知ってほしい、マイナス金利なんてあり得ない。マイナス金利だったら、金を借りたら、金

をもらえるんだよ、そんなことあり得ないでしょう。金を借りて金をもらえるなんてあり得ないでしょ。じゃあ何なんだ。ゼロ金利で売買価格で調整しているからわかりやすくマイナスといっているだけでね、金利がマイナスになることはないです。あくまでゼロ金利。

同じように仮想通貨なんて言葉を君らも知っておいてほしいんだけど、存在はしない。政府が政府である以上、通貨をコントロールするというのが政府の機能の3つのうちのひとつなんだよ。仮想通貨じゃなくてデジタル通貨だと言うべき、そういう言葉ではありうる。イスラムステーツもそう。イスラム国で訳したら、ほんとに不勉強極まりない。国でなんかあり得ない。ステーツが米国、ユナイテッドステーツだから国で訳しているが、本当にマスコミの不勉強さだと思っている。あれはあくまでイスラムステーツという「団体」なんです。君ら社会に出たときに「言葉でだまされなさい」。フィンテック、DXが何を指しているか、言っている人によって全く違うことを指している。ちょっと話が飛んだ。



債券もそういう意味では金利が出ない。人から金を預かって、運用して、その人たちに返さなければいけない。稼がなければいけない中で、金利がゼロなんて債券に投資はできない。

で、残ったのは株だけなんですよ。なんで株にお金流れ込んでいるのか、世界中を、特にアメリカ中心で日本もそう。だけど理屈でいうとここまで上がるのはおかしいと、みんな疑心暗鬼なんだよ。いまこじか運用がないからここに投資した。でもいつかバブルがはじけると思っているから、変な噂がでるとすぐ逃げるね。昔は為替と連動してました。日経平均が。これは調べてみればわかるが、そのうちトランプ大統領(当時)の選挙になったらトランプ大統領(当時)が強いか弱いかで株が動くようになった。今は噂で売る。なぜかという根拠が抜けちゃっている。しかもアルゴリズム。まさにA iでやっているアルゴリズムで1秒で1000円動いてしまう。1秒じゃなくて4秒か、昔は場立ちでこんなことをやっていたから半日かけて500円、600円動いていたのが、いまはアルゴリズムのおかげで4秒で1000円動いちゃう。動きが派手になってきている。だけどみんな危ないと思っているから、今、株の動きは何だと。噂で売る。

株のバブルがはじける要因は二つです。ひとつは金利が上がる。株はもうバブルだと思っっているから、安全な債券に移したい、みんな。だけど金利が出ないから債券に移せないのが、アメリカの金利が上がることによって、こっちの方が安全だったらみんな、こっちに移したいんだ。だから「アメリカの金利が上がるよ」という噂が出ると、株は下がる。やっぱり「まだだ」と思ったら、また上がる。

2つ目はポリティカルリスク。米中でちょっと、これは全面戦争になるとは絶対に思っていないけれども、東シナ海でトラブルが起こった、お互いに突っ張りっこになる。お互いに下りられない。そうなったときにいちばん影響を受けるのは日本なんです。なぜかという輸入輸出に頼っている我が国は、ここ、海上のシーレーンが最大の問題点、第2次世界大戦では、ここを抑えられるのがいやだといって、戦争を起こしているんです。歴史が証明しているんだ。さっき言ったように、自国の国内の政権が安定しなくなると外に強く出る。要はシーレーン国家ですからこの物量を途絶えさせられるようになると、武力でなんとかしなければいけなくなる。もしくは痛めつけられる。こういう歴史が証明していることが繰り返すことになる。君たちが新聞やニュースを見るときに、因果関係をしっかりとつかむこと、言葉に惑わされない。これを

今から、学生時代から勉強していただければと思います。これは実は、うちの社員たちに、銀行や証券の若手も含めてそう言っています。

今日の本題は、ぼくらが企業を経営していくなかで、いまの社会として求められる人材。君たち学生ですから将来社会に出るわけだ。ベンチャーを起業する人もいるだろう。役人をめざす人もいるだろう。大企業に勤めたい人もいるだろう。もしくは大学で研究に残る人もいます。どんな人生でもいいんだけど、共通して、いま我々が求めている人材というのは、ある程度の映像化ができます。それをちょっとお話しさせていただいて、そのために今君たちが大学時代に何をやって欲しいか、というお話しをさせていただければと思います。

このなかに早稲田大学の学生っているかな。実は早大商学部の入学式で、いま2番目に言う「大学時代にやってほしいこと」を言ってたんで、入学式に出ていた人は、「同じ事を言っている」といわれるのもいやなんで、それで確認したんだけど、まあ、居ないんだったら、初めて聞いたということだ。

「社会人として、いま社会で求めている人材」、大きく言うと3つだと思う。ひとつめは好奇心の強いこと。好奇心のないやつは、はつきり言うとか、魅力がない。言葉が悪いので、鬼軍曹とかやくざだと言われるんだけど、好奇心のないやつ、上から言われたことに「ああそうですか」と言ってるやつを、企業は全く求めていない。ちよつと言葉がきついから、世間にそのまま言わないでくれよな。好奇心で何だと言われたら、あとで大学時代の話につながるんだけど、自分の好きなこと、自分の興味があること、インタレスト。これを早く見つけることなんだ。何でもかんでも好奇心がつよいのも、これもいいことなんだけど、収拾がつかなくなる。君たちの中でもスポーツをやってきた人がいると思う。体育会であんなきつい練習をなんでやってたんだ。好きだからやったんだ。好きだって言うことは、モノの根底に対する絶対的な強みなんだ。いやなことなんか長続きしないんだから。君らはしっかりと勉強してな、嫌いな勉強もやって大学受かったんだろうけど、僕らの頃はもうちよつと緩やかで、あまり勉強した記憶がないんだけど、夏でも学ランをきてこうやっていたら、推薦をもらえたというよき時代もあったんだけど、いまはなかなかそういう時代ではないんでね。好きなことをまづみつけてくれ。好きなことだから、その根底は何か、好奇心なんだ。何が好きか、最

初から決めつける必要はないんだ。自分が面白そうだな、興味があった、インタレストなもの、好奇心を持ったものをかじってみる、まず。ぼくはもうすでに君らのお父さんより年上で、おじいちゃんより下くらいかな、年金をもらう年になってるので、この年になって、今から好きなモノを選べといわれてもちよっと大変なんだよ。だけど君たちだったらまだ時間が、好奇心を持って、自分の好きなモノをいろいろ見つける、探す時間がある。これは君たちにとってもものすごく有利なんだよ。いくら100歳時代だっていったって。66の俺がいまから新しいことを覚えるのは大変なんだよ。(前方の)この辺に居る方はだいたい昔のことはよく覚えていてるけどね。きょう昼飯何食ったかなんて、あれって言う世界に入ってくるんだ。君らはまだ時間がある。この時間というのは、年を取るとわかるけど、ものすごい財産。ただこの時間を無為に過ごしてしまうと、あつという間に終わる。青年老い易く、学成りがたし、じゃないけれどあつという間に過ぎてしまう。今だからこそ、自分の好奇心の赴くままに、好きなことをやってみる。ただ、やりっ放しじゃなく、その中から「何が自分のいちばん興味があるのか」選択してくれ。

はつきり言うが、「人生は選択」なんだよ。「決定」というのは何だと、「捨てることを選ぶこと」なんだよ。やることを選ぶのがいちばんいいのだけれど、なかなかピンポイントでは選べない。だったら、選択していくためにはまず捨てていくんだよ。いらないと思うモノ、違うと思うモノを。絞った上で何をしようか決めたらいい。最初に言ったとおり、この考え方だけが正しいわけじゃないからね。正しきなんて百万通りあるからね。ただやってきて、それで一応、今の人生を送れたからまあ間違えてはいないと思っているから、話しているだけで、違うと思ったらべつの事を考えればいい。

まず選ぶこと。選ぶと言うことは逆に言えば捨てるということ。そのなかで自分の好奇心が向くモノ、これを早くみつめてくれ。

2つ目は、これはちょっと難しいのだけれど、「創造的かつタフであること」。創造的、ごめん能動的という言葉がいい。能動的の反対は受動的、僕は入社式で必ず銀行の副頭取時代から言っているが、「教わっていません」という言葉は、今日から捨てる。「教わっていません。寝ぼけたことをぬかすな。君らはいま学生だ。授業料を払っているから教えてもらう権利がある。だけど、社会人になったら給料をもらうんだ。自ら学

ぶ義務がある。『教えてもらってませんか？』だったら、「給料を返してくれ。」はつきり言う。そうするとだいたい人事部長がとんでくる。「副頭取、あんまりきついことをいうと、辞めるやつがいます」「いいじゃないか」と。教育費をかけて3年後に辞められるより、よっぽど効率的だと。

明快にコインの表と裏なんだ。権利と義務がある。意味がわかる？権利というのは、金を払っているから教えてもらう権利がある。でも給料ももらう以上、自らが学んで何かをする義務がある。それが理解できないやつに給料払っても意味がない。未だにぼくはそう思っている、経営として。成果が上がる上がらない以前の問題だ。「教えてもらってません」。寝ぼけたことを抜かすんじゃない。ただ一方で、「君たちが学ぶことを阻害する要因をほっとくんだったら経営に問題がある。それについては何でも言うてきてくれ、メールでも良いので」と表明している。

ぼくは週休4日、つまり3日だけ働くという制度をいれた。なぜかって、親の介護を本当にやるとしたら、地方の親を介護するには週休二日や三日じゃだめなんだよ。理由は簡単なんだ。やってみればわかる。

親の介護が一番重要なのは、病院に連れて行くことなんだ。ところが金融機関は土日が休みなんだ。他の業種は違う曜日に休めるかもしれないが、銀行、金融機関は原則土日が休みなので、週休三日だとしても、月曜か金曜しか休めないんだ。遠くのやつだったら、移動に一日かかったら親を病院に連れて行く時間がないんだよ。週休四日、木金土日と休めたら金曜日に、土日月火だと月曜日に病院へ連れて行くことができる。週休四日にしたら三日しか働いていないんだよ。悪いけど給料は5分の3だよって。ただし、親の介護が終わって戻ってくるんだったら、もとのポジションに戻してやるから、その選択をしろと。結構できてきた。副業も本業に影響がない限りいいと。時代と共に変わってきて当たり前だと思っている。

ただし、この前提は能動的に、自ら動いてくれるやつを対象にしている。俺の考え方としては。銀座支店の課長時代、いたんだよ。前の晩、副支店長と飲み過ぎて来ない若いやつがいた。「どうした あいつは？」と聞いたら、二日酔いで気持ち悪いんで休みます。激怒したんだ。出てこい、出てこなかったら貴様すぐ辞表を送ってこいと。船橋の独身寮からネクタイぐちゃぐちゃにしながら出てきて、顔をみて「おっ よく来



た。帰っていいぞ」と。なぜかというところ、「義務」なんだよ。酒を飲んで翌朝こない。寝ぼけたことを抜かすんじゃないと。ただ一方で本当に風邪をひいたとか、逆にあったら、あろうことか当時の支店長が難色を示したんで、ふざけんじゃねえと休ませて、あげくの果てに支店長室で大げんかした挙げて、もう部下を連れて「おまえら稼いでこい。聞こえてただろう」。いつもの倍稼いできたので、四時半過ぎに支店長の机に成果を叩きつけて、外回りみんなで帰っちゃったとかね。

「やるなよ」。やったときは気持ちいいいいんだよ、正直言って。部下もついてくるし、おりゃーと言えるんだけど後の始末が大変なんだ。

話がそれた。自分で考えた事を能動的に追う。言われたことをやるやつは求めていない。ベンチャー



をやりたいやつは、まさにそうだと思う。自分で能動的にやってみたい、結構なことじゃないか。僕はすべてを3つにまとめる。なぜか、4つ言っても覚えられないから自分が、能動的かつタフに。タフってわかるか。便利な言葉なんだけど、3つの部門にタフだと。

ひとつはフィジカル。どんなきれいな事を言たって、倒れて寝込んだら、先に進まないんだよ。まずフィジカルにタフ。

2つ目はメンタルにタフ。これも理解できるよね。いやなことなんて当たり前にあるんだよ。メンタルにタフ。

3つ目は、君らは聞き慣れないかもしれないが、ソシアルにタフであること。人間は社会的な動物、サラリーマンになったらわかる。俺の方があいつより一生懸命仕事をしている、俺の方があいつより出来がいいはずなのに、なんであいつの方が先に偉くなるんだ。なんであいつの方がボーナスが多いと言いたいときが出てくる。そこでふて

くされたやつから、消えていくんだよ。俺の方があいつよりしつかりやっている、俺の方ができるはずだ。にもかかわらずあいつが優遇されている。そんなやつてらんねえ。ふてくされたやつから消えていくんだよ、社会としては。いま君らは意識がないかもしれないが、前の方にいる皆さんは「そやな」とわかっている。いろいろあるんだ世の中に出たら。いいことばかりじゃなくて。それをなにくそと言えるかどうか、メンタルの強さなのかもしれない。気分的なメンタルの問題じゃなくて、社会的なメンタル、人間は社会的な動物だからいろいろな面で不遇がある。不遇があったときにふてくされて、やることをやめたやつが、消えていくんだよ。

先ほどちらつと言ったんだけど、俺は大学時代、仕送りがなかったんで、稼ぐので大変だった。1年生の時は塾の教師を四日、夕方4時半から9時まで。残り3日間で週2日の家庭教師を3軒やっていた。塾はなにかあったら休みになるんだけど、家庭教師の方は、一日、コンパか何かがあって休むと、土日に3軒いかなければならない。2時間ずつ。移動を加えると、ほぼ8時間から9時間、時間がつぶされる。で、就職した。稼いできたよ。就職したら同じゼミのやつが住友銀行に入った。

こいつは新潟のお坊ちゃま。当時、15万くらい仕送りがあった。ケントかなんか吸っていたが、俺は「いこい」か何かだった。「このやろうと」。いい下宿に住んで、うまいもの食って、ちょっとしゃれた背広を着て、「野郎」と思っていたんだよ。

銀行員になったら定期預金を集めてこいというノルマがある。彼は親父にいうと1000万単位で預金してくれるんだよ。俺なんか足で稼がなければいけないから、50万、100万を一生懸命頭を下げて集める。一時、俺も思ったことがある、不公平だと。学生時代から就職した1年目はね。俺はこんなに汗水垂らして苦労しているのに、あの野郎、ちゃらちゃらして、親父が出してくれるから成果が上がっていたと思っていた時期があるんだけど、ある時を境に考え方が変わった。「こいつは長続きしないだろう」と。俺はどんな状態になっても食っては行ける。大学4年生の時は塾をはじめ、月に50万くらいは稼いでいた。だから俺の方が絶対に強いと。なぜかという、こいつは打たれたことがないだろうと。

自慢がひとつ。金融機関の役員で電気溶接の国家資格を持っているのは、俺だけだ

ろう。理由は高校3年生の6月に、早稲田の推薦が決ったので、恩を受けた加藤先生から「おい清水君。みんなは受験勉強しているなかで、受かったおまえがくるのは迷惑だ。来なくていい」と言われて。みんなの目障りになるんだよ。昼は自動車整備工場、夜は家庭教師をやっていた。高校3年生の時にそうやって食っていた。その自動車整備工場へ行ったときに、電気溶接、当時はタイタンという日野のトラックに幌をかけて走っていた。トラックの荷台に鉄管を溶接してそれに曲げた鉄の棒を組み、それに幌をかけた。その作業をしていた親父さんが、かぜをひいて休んだ。仕事が立て込んでいたので「清水、給料出すからちょっと（溶接を）やってみろ」と言われ、うまくできた。無免許ではまずいから試験を受けてこいといわれ、試験を受けに入ったら実技は受かった。それでももらえらと思つたら、ペーパー試験があると。なんとか合格。車の免許も、当時、八田村にあった教習所に自動車工場のトラックを持ち込んで、トラックで免許を取った。いまでも8トントラックまでは自分で転がせる。似合うんだ、これがまた。はちまきしてジャンパーを着ると、ほとんど似合うね。(笑)自衛隊の90式戦車も乗せてもらったけど、似合うんだ、これが。ヘルメットを被って、ゴーグルをかける、制服のこの辺に勲章付けても問題ないかなというぐらい似合うんです。それを考

えたら、俺は食っていけると。どんなことがあってもね。あくまで自分で能動的にものをやることと、タフであること、フィジカルにもメンタルにもソシアルにも。

特にいまの若い皆さんに言いたいことは、ソシアル。いいことばかりじゃないんだ。いいことばかりないけれども、そこでふてくされた奴が消される。言葉で考えてみる。仕事って漢字で書けるか。あれは「事に仕える」と書くんだ。ビジネスである以上、仕事である以上、自分が中心ではないんだ。事に仕えるから仕事なんだ。ただ、今の時代は昔みたいに、無理編にげんこつだとか、ほとんど人権侵害に近いような経験がまかり通る時代ではない。いまがそんな時代じゃないのは事実だけど、あくまで中心は、君たちでなく仕事だ。ビジネス。ビジ―の名詞形だよ。忙しくて当たり前なんだ。暇なビジネスなんてあり得ない。

言葉ってよくできている。ただ、「理不尽」は非だよ。副支店長を殴ったときも、テレビにでてくるような理不尽なオヤジだった。うまくいくと、私がやらせました。うまくいかなかったら、誰がやれて言ったんだと。きのうおまえがこうやれていった

話じゃないか。こういう人に限って卑怯なんだよ。で、必ずスケープゴートをみつける。いまのいじめの構図と一緒にだ。

ひとつ年上の京都大学を卒業した先輩がいた。ものすごいまじめな人だった。白面の貴公子。なぜ大学院に行かなかったの、というくらいの人だったが、何をやってもこの人が怒られるの。関係ないのにこの人が怒られる。口答えもしないのに。俺みたい

に血の気の多いやつは怒られない。当時は高卒のひとも多かったので、こういう人は、おっかない人を怒らなかつたんだ。

何をやっても自分の権力を示したがって、その先輩を怒るんだよ。これが段々、むかむかしてきて、ある日、夜の11時半ごろかな、「てめえ、ふざけたことを言ってるんじゃない」といって一発、殴つたんだけど、いや殴りかかったところで同僚に腰にしがみつかれて止められた。あごをちょっとかすただけだった。もう一発、きっちり入れたかったんだけど、後ろに引つ張られるなんて想定してなかつたんだ。みんなに取り押さえられて。

5日後かな、支店長に呼び出されて、「貴様、けんか両成敗って知ってるか」「知ってます」。散々、毎晩先輩に連れて行かれて、「おまえなあ 懲戒免職になるかもしれないけれど、サラリーマン人生は終わったけど、男の人生は終わったわけではない」とか言われ、歌舞伎町で酒をごちそうになった。「いい会社に入ったなあ」と思っていたんだよ。で、支店長室に呼ばれた。「貴様は自分が何をしたか、わかっているのか」「わかっています」「なら、けんか両成敗で転勤は文句ないな」と言われて「しめた、クビじゃない」「おふくろに言い訳しなくて済む。ぱっとみたら、自分の名前、役職の下に、青山支店勤務を命ずると書いてあった。「しめた、クビじゃない上に、山手線の内側だ」。(北海道の)長万部に支店はなかったが、稚内じゃなかったと。よかった、よかったと思っていた。

ハンコを押して、ぱっと上を見たら、支店長が俺の顔をみていた。今だったら違う対応ができるんだけど、当時はまだ23、若かったから思わず言ったんだ。「支店長、けんか両成敗とおっしゃいましたが、副支店長はどこに行くんですか」と聞いたんだ。そして腕を組んでいた支店長が、「与野じゃ」。120人いる新宿の筆頭副支店長が、二十数



人しかない埼玉県与野市の副支店長になって、その時俺は「いい会社に入ったと。俺は正しいと認めてもらった」と思って、ふてくされもせずに飛ばされて、がんばった。いい会社に入って、いい先輩、いい上司に恵まれたと思ってがんばっただけど、あとで自分が支店長になって、自分の人事調書を見たら、やっぱりバツテンは付いていた。自分ではバツテンと思ってないわけだ。殴った俺が青山で、なぐられた副支店長が埼玉の与野市だから。後で悟ったんだ。あそこでふてくされていたら、今はないな、と。

人をなぐったから飛ばされた。もうこれで俺の人生も終わりだなと思ったたら、先はなかったんだろうな。当時はそれがわかってなかったという幸運もあって、「俺はいい会社に入った」と。支店長に恩を返さなければ、男は義理と恩だと思ってがんばって稼いだ。そういう意味で、「ソーシャル面でふてくされたやつが消えていく」。同期は330人、六つの銀行が一緒になって、そのなかで副頭取になったが自分がトップだとは思っていない。俺より出来のいい奴はなんぼでもいたし、330人の上位1割で30番目、そのくらいだと思っている。ただふてくされなかったこと、ある意味、突っ張れたこと。

この間、ある新聞にも出ただけだけど、不動産会社が倒産しそうになったとき、俺は監査担当の常務になってただけど、トイレで頭取を待ち伏せして、「この会社は絶対大丈夫だ。金を貸すべきだ」。監査担当役員が頭取に案件を進講するのは間違いだから、あくまで個人としてトイレで待ち伏せしてやった。その会社はいま隆々としてますよ。やっとうちのグループに取り込むことができた。

言い方が違うけど、「柵からぼたもち」は皆に公平に落ちている。「柵からぼたもち」は、絶対に公平に落ちている。落ちたことに気づかない奴もいれば、落ちてきそうな柵を探している奴もいれば、ひよっとしたら、柵の上に登って、先に食おうとするやつもいる。それを努力と言うんだったら、努力かもしれない。意味わかるかね。

そういう意味で、先に登って食うという意味がたくさん必要なのかもしれない。

次は、現場、現物、現実を受け入れる柔軟な思考。頭がかたい奴は、現場で成功しない。特に銀行だったから言うんだけど、「そんな ばかな」という奴がいる。そんなば

かなことは起こらない。特に役人系統の方は多いです。青天の霹靂というのは、しゃれで言うのはいいけど、本心から思っているのであれば、そんなポストを受けるな。

もっとひどいのは、「想定外で」。ふざけたことを言うなど。想定してたよりもちょっと大きかったというならわかるけど、想定外なんてダメだ。ただ想定はしてた。その範囲をコストパフォーマンスを考えてここまで縮小してただけけど、それ以上のものがきたというのは、確率論としてあるかもしれない。そのトラブルを想定していませんなんて、指揮官としてとんでもない間違い、社会人としてもとんでもない間違いだと思う。想定できるはずなんだよ、過去を学べば。それを温故知新といっている。

過去を学んで新たに、そのままやるんじゃないくて、今の状況、今の科学進歩と確率論と、コストを考えてここまででと。それ以上凄いことが起こったら、それはしょうがないよ。温故知新とはそういうことだと思っっている。過去に起こっている。若い連中に言っている。どうするか、まず真似をしろ。こいつは凄い、この人は尊敬できる、学生時代にもいるはずだ。社会人になったらもっと出てくる。その人の真似をしろ。中途

半端にやるな。箸の上げ下ろし、しゃべり方、メモの取り方を真似したらいいんだよ。スポーツをやっていた奴は基本があるはずだ。テニスのラケットの握り方だって、剣道の竹刀の握り方、技のかけ方だって先輩から真似をしているんだ。真似するのは悪いことじゃないんだ。

誤解しないでくれ。まず真似をするんだ。これが昔を学ぶことなんだよ。俺の経験で言うと、徹底的に真似をすると、途中で、あいつちよっと、俺だったら違うのにな、と思うことがある。そしたらその人の真似をやめたらいい。別の人の真似をしたらいい。これを3回も繰り返し返したら、自分の型ができるよ。

それを幕末の剣豪、千葉周作は「守・破・離」と言っている。司馬遼太郎の「北斗の人」の主人公だけどね。型をしっかりと守れ、まず身につける。そしたらそれを打ち破る工夫をしろ。それを繰り返しているうちに、こだわらなくなり、離れる。そしたら名人、達人になれる。

じゃあ流派の型を守るって、俺たちは社会人や大学生だ。何をするか、それは人の真

似をすることだ。住友グループは400年の歴史がある。三井グループも300年以上やっている。俺が支店長として役員として迷いに迷ったことがある。過去にも同じ事で悩んだ人が、売るほどいるんだよ。で、成功した人も失敗した人もいるんだよ。したら成功した人を真似したら、いちばん確率が高いはずだ。失敗した人のまねをしなればいい。その意味で「守・破・離」は重要だと思っている。

現場、現物、現実。現実になると「そんなばかな」と、さっき言ったことに戻ると、「そんなばかな」と言っている暇があったら、対策を考えるべきだ。現実には事は起こっている。ぼくは歴史大好きで、敗れた人は、想定以上のことが起こったとき、そこで止まってしまう。「ありえない」。そこであり得ないことが起こったんだから。誰の責任だと言っている前に、対策を打つべきだ。

「そんなばかな」なんて言っていないんだ、うちは。起こってしまったらしょうがない。処分は後で考えろ、とにかく対策だ。大変お恥ずかしい話だが、俺が日興証券の社長に就任してすぐに、不祥事を起こして逮捕された元社員がいた。そのとき社内からは「もっと調べてから発表しましょう」と。「ダメだ すぐに記者会見だ」と。事実、捕まっ

たんだったら、捕まった事実をもって謝罪会見をすべきだし、公器としてね。細かい質問が出たら、「それは今調べているからお答えできない」とはつきりことわれればいいだけ。なぜかというところ、攻める側が有利なんだよ、時間が経てば経つほど。守る俺たちは、同じ時間をかけても攻める方が有利に決まっている。重箱の隅をついて探し出せるんだから。だったら即座に対応すべきだ。対応して「申し訳ない」と。あとで興味あるやつは別途教えるけど、まあ、マスコミの人はなかなか慣れていてね、いかにもにやついた俺の顔を撮りたくて、下にもカメラを抱えているんだよ。頭を下げて目をつむっていると、笑っているように見える。俺の手だけを写しているカメラもあった。いらいらして手が動くところを撮りたかったのか。それをもって、何かを隠していると書きたい。俺の後輩に慣れているやつがいて、会見直前に「清水さん、肩をふって歩くのはやめてく



ださい」(笑い)。いかにももつともらしく、かがみ気味に歩いて入ったんだけど、冗談は別にして、必ず現実は起こったことはしょうがないと受け入れて、それに対する対策はどうするか、責任の所在は後からなんだ。

今から話す事こそ外に出さないで。東日本大震災の時に某銀行の一回目のトラブルが起こった。システムトラブル。あの時、その母体のOBだった某運輸の社長から「来てくれ」と言われた。銀行の副頭取時代。「なんだい」とたずねると、「清水さん頼みがある」。某運輸は被災地でも輸送を途絶えさせない。社員にも協力を取り付けた。現場で配送している人たちはサラリー、週給なんだ。毎週ごとに金を払う。ところが銀行の都合で金が払えない。自分の家族も、自分の家のこともほっといてやってくれる奴に給料を払わないわけにはいかないだろう。「清水さん 受けてくれ」というから、「志はよし」、「何人分位だ」と聞いたら30万件。「ちょっと待ってくれ」と。某銀行もそれでパンクしたんで、俺はシステムなんかわからないと。「ちょっと時間をくれ、会社に戻って対応できるかどうか確認する」と言った。すぐ銀行に戻って、システム担当の専務を呼んだ。「おい、30万件だいじょうぶか」。うちの専務もはつきりいった。「清水さん わ

かりません」。なぜかって、専務はシステムのプロではない。当時だよ、今は違う。

システム統括部の次長が東工大出身だから呼んだ。「おい大丈夫か」と聞いたたら、「やってみないとわかりません。成功の確率を上げるために3つお願いしたい」と。それをやってくれるのだったら、受けますの返事。

システムエンジニアを40人用意してくれ。2つ目、某運輸のなかに常駐する権利を取ってきてください。

3つ目、トラブルが起こったとき、派遣しているうちの社員がシャットダウンする権限を取ってきてくれ。システムエンジニアを40人集めてきてくれというのは何となく理解できた。だけどなぜ40人なんだ。うちの銀行とセンターに何人か配置して、先方のシステムセンターに常駐させる。10人もいれば足りるだろうといったら、清水さん、機械は24時間動くのですが、人間は8時間労働です。(必要人数の)3倍はいるんです。あっ それはお前の言うとおりだな。結局27、8人しか用意できなかったんだけど、それでどうにか足りた。じゃあ後の2つは先方と相談しなければいけない。社長の所



に行って、「常駐させる権限をよこせ。」それはすぐにOKになった。「トラブルだとわかった時点でシャットダウンする権限をこちらによこせ。」といったら、さすがに相手もちょっと待ってくれと。

先方のシステム担当を呼んでOKを取ったんだけど、行く前に担当の次長に「シャットダウンする権限で何だ」と聞いたら、納得の答えが。システムは小さな三角形の並列がくっついて、上に行くに従ってどんどん繋がって行くもの。面積が大きくなってから原因や対策を調べるのは無理だと。いちばん小さいところで止めて、そこだけで調べればそんなに難しくなく調べられる。「お前いいこと言うな」と。文系そのものの俺でも理解できた。あいても納得した。そして、社長に、俺たちの条件はシステムエンジニアの常駐とシャットダウンの権限と手数料は一銭もまけないの3つだ。某銀行は一件30円です。俺は定額通り6000円もらう。それがいやだったらないことしよう。そしたら全部払ってくれた。それでだいぶ稼いだ。

3カ月後に某銀行さんも直ったので、我々に戻せと言ってきた。社長は「おまえら

のミスをこちらに押しつけて、直ったからもどせとは、なんだ。」と激怒した。そうはいつでもそこからきている社長なんで、3分の一は残すから、3分の2を戻させてくれといってきた。手数料は某銀行の一件30円に合わせてくれ。「いいよ、稼ぐモノは稼いじゃったし、システムはできあがっているから。」

なんで3分の一残してくれるのときいたら「信用できない」。全部1ヶ所でやっていると、ここがダウンしたときえらいことになるからと。今回みたいに、お前に600円も取られないように。それはそうだねと納得したんだけど、それが経営なんだ。

困ったこと、こんなことが起きたときは、どうしようって、まず動くべき。そういう意味で現場、現物、特に現実を受け入れる。この柔軟性、これを社会が求める。これは大学教授だろうが、ベンチャーを始めようが、大企業に就職しようが、マスコミに行こうが、役所にいこうが、ほとんど求めていることは変わってないはずだ。

いままで役所や銀行ってのは現実を受ける柔軟性やタフさを求めているなかったが、

今は違う。役所でさえそうだ。そういう意味では、これをしっかり身につけて欲しい。そのために大学時代、やってほしいことは、好奇心の中で、興味が持てることをひとつ、ふたつでもいいけど、徹底的に自分のものにして欲しい。

なぜなら興味が無いことは長続きしないから。どこの企業に行こうが、ゼネラリストは必要なんだ。ゼネラリストはいらぬは嘘だと思う。でもな、全部平均にゼネラリストは意味がない。何かに特化した、強みのあるゼネラリストでないと意味がないんだよ。ひとつのことだけに特化して、ほかのことを全く知らないと、自分の殻の中に入りがちで、まわりとの調整が不得意になりがちなので要注意だ。

たとえば、アメリカ軍の階級、これはものすごくよくできた階級なんだ。実はウエストポイント(米陸軍士官学校)で勉強したんだけど、軍隊は兵隊、下士官、士官となっている。兵隊の袖には山形の記章がついている。君らは「ラットパトロール」なんかは知らないか。サンダース軍曹。袖の記章には意味がある。兵の山形は突っ込めという意味。もうひとつは根っこという意味。下士官というのは軍曹だ。その上は曹長。山

形の下にわっかが付いている。突っ込む兵を支える役が下士官だ。大尉、中尉、少尉という、陸軍で言うくと小隊長だ。これは襟に棒線が入る。1本とか2本。これは上と下のジョイントで幹になる。大佐、中佐、少佐が佐官。少佐、中佐はカエデの葉っぱ。大佐になると鷲のマークになる。なぜかという、木の上からモノを見る。大佐になると連隊長、海軍では艦長。鷲の目、鳥の目でものを見る。將軍になるとそれが星になる。星の目線でそれを見る。

それを日本はまねして、桜に変えたんだ。意味がないんだよな。根拠がない。花は桜木、男は早稲田といって旗をもって走っていた俺だけど、意味があることを忘れて、真似したって意味がない。

たしかに將軍だったら星の目線でものを見るべきだし、艦長だったら鳥の目線でものを見るべきだ。中隊長クラスだと木の上からモノを見る。大尉、中尉だと部下を引き連れて、上と下のジョイントになるべきだし、曹長は突っ込む根っこを支えるべきだし、兵隊は突っ込めばいい。よくできたマーキングだなど思っている。

それと同じように、なにかひとつ特化したモノがないと、ゼネラリストは埋もれてしまう。特化したものがひとつの兵であり下士官だったらそれでまだいいが、将校として上位の佐官は特化したものも持ったゼネラリストでないと無理だ。

そこで大きな2番目、コミュニケーション能力が必要になる。横との調整もしなければいけない。横との調整をしたときに、それを知らなかったら、相手にだまされる。だまされるだけではなく、ほかのことを理解できなかったら、協調できない。特化した強みをもった上で、ほかのことにも好奇心をもって、ほかのこともちょっとかじってみる。そういう人材でないとチームが組めない。これしか知らないけど、これしか知らないあいつと、本当にウマが合うか、心底腹を割って打ち合わせるっていうんらいよいよ、でもね、なかなかそうもいかないんだよ。隣りのことをちょっとでも知っているやつでないと、協調できない。チームアップできない。

そういう意味では興味もてることをしっかりやって、コミュニケーション能力って

なにかとというと、自分の得意技と違う他人の得意技を融合して、チームアップしないとモノはできない。

なぜかというとなら複雑になっているんだ。昔は違ったというと、先輩方には怒られるかもしれないが。昔は体育会で格闘技経験者で、無理へんにげんこつだったからね。水を飲むと、「貴様、なんだ」とか言われて、蛇口を針金でしぼられた。口答えすると、ウサギ跳びで校庭何周とかいわれて。水なんて、いまはプロでさえ給水タイムがある。ウサギ跳びはひぎを壊すからやめろといわれる時代。時代と共に考え方が変わってきているのは事実なんだけど。コミュニケーション能力がないと、チームアップができない。

チームアップができないと、昔は単純なことでもひとつのことができたんだけど、いまはチームアップしないと無理なんだ。理由は簡単なんだよ。文系のおれにコンピューターを教えるよりも、理系の奴に経済を教えた方が楽だから。時代と共に変わっていくんだよ。かといって、理系を優遇しているわけでもない。理系と言ってもピンから

キリまであるからね。文系も同様。

興味を持てる好きなことをしっかりと、エッジが立つようにした上で、ある意味、ほかのことに興味を持てる奴が、コミュニケーション能力をもてるんだよ。コミュニケーション能力のない奴は、孤立するだけで大きな仕事はできない。

大項目3番目のダイバーシティ。これこそ皆さんに言っておきたいのは、女性を優遇するとか、国籍云々とか、そういうことを言っているんじゃないんだよ。ダイバーシティって、明快に自分と違う考え方、自分と違う性格、自分と違うモノを認められることがダイバーシティ。

うちの会社にはジェンダー用のトイレも造らせた。3年前、造れと言ったのはおれだ。

自分と違う考え方、自分と違う嗜好、これを認めるのがダイバーシティ。俺は世界中

にいる社員に言っている。君の評価基準は3つだ。タレントとエフォート、才能と努力、これのかけ算で底面積がでる。才能と努力で能力。

能力は才能と努力なんだ。高さはエンゲージメント(従業員の会社に対する愛着心。個人と組織が一体となり、双方の成長に貢献しあう関係)約束、誓約。お前、何を約束してくれる。何をうちに尽くしてくれる。どんなつもりでうちに就職した。このエンゲージメント。これの体積、立てかける横かける高さで立方体の体積がでるから、体積の大ききで評価してやる。

人種、肌の色、男女に興味はなく、体積のでかいやつを評価してやる。大学院でようが、中卒だろうがかまわない。ただし、そのポストによって、求められる能力や、特にエンゲージメントが違う、企画の担当をさせて当局との交渉をさせるんだったら東大が有利だ。交渉する相手も東大だからだ。ミッションによって、当然、エンゲージメントや才能、努力に違いはでてくる。そうでないんだったら、全体の総論として言うんだったら、体積が大きい者を評価する。



昨日もあるアジアの国の駐日大使を卒業校である早稲田大学の総長に引き合わせた。OBとして早稲田の大学ランキングをなんとか上げたい。その為に必要なのは2つ。一つはスピード感、2つめは総論だけでなく各論を確り考えること。各論は何だ。5W2Hだ。誰が、どこで、何を、いつまでに、どのくらいの量で、具体的にどういう方向で、なぜそれをやる必要があるのか。

5W2Hのなかで「なぜ」はわかった。総長に頼まれて、委員に推薦されたが、総論は「世界に輝く早稲田にしたい」「いいです」。経済界の第一線で大活躍している知人らと大学の先生5人でアドバイザリーボードを務めて、副総長が主催で会議をやったんだけど、残念ながら、具体策に乏しかった。

総論にだれも反対なんかしねえ。具体的は何をしたいの。俺に何をやれって言うんだ。それをいつまでにもない。

これが現場、現実、現物に適していないケースだ。5W2Hがない議論をいくらやっても前には進めない。ひとつはやってみてだめだと思ったら、躊躇なく撤退する。変

えるという勇氣は、きつきいった捨てる勇氣、変える勇氣がないと無理なんだ、実社会では。役所なんかあるんだよ。いろんな役所と交渉しているんだけど、昔、とある役所に、あることをやりたいといったら「素晴らしい意見です」のあと「でも法律でだめです」。課長に「俺だってそのくらいは調べてきている」。「いや明治の省令に違反しますから」「はあっ」。明治何年で、今何年だよ。世の中、全く違うのに、変えてもいねえのか、と。そしたら答えた。「変えるのは私の仕事ではありません」。机を叩いて怒った。ふざけるな、と。明治の規定をそのままいいと思ってるのか。やあ、時代にそぐいませんね。そんなばかなことはやめてくれと。この人を称してその役所が悪いと思ってる場所もあるんで。まともな人もいるとは思っているが。

一方で利権なんだよ。利権の獲得だったりするんだ。というのには、外に出ていろいろ言わないでくれよな。おれも立場があるから。うちの後輩たちから「はつきりものを言い過ぎですから、おねがいしますよ」と言われている。いまお話しさせていただいたように、いま、社会が求めている人物像を、君たちが学生時代にどこまで身につけられるか。ただし、最初に言ったように、これだけが正しいわけじゃない。正しきは百万

通りある。それがきつき言ったように、自分らしきのエッジを立てるために使えるんだ。使ってもらっていいし、違うと思ったら無視してもらっていい。

なぜか、同じ人間だけ集めたって、ろくな組織にならない。いろいろなやつがいてもいいんだよ。俺みたいな鬼軍曹が1人もいないと、組織は弱い。だけど皆が俺だったら、やっぱりちょっと違うだろうなと思うだけで、いろいろなタイプがいていい。それを軍服用語で「兵科合同」。ひとつの分野の軍隊だけでは勝てない。

あらゆる種類の人を使える、それを前提に作戦を立てる。それぞれのスペシャリストが、隣りのことも、周りのこともわかった上で専門性を発揮するから、チームとしてうまくいくし、強い組織、強い国になると思ってる。ぜひ、その中の一コマとしてみなさんはできることをやってほしい。

皆さんの将来に期待しています。

## 質疑応答

### 質問

—いま社会で求められる人材として、私自身は、前例主義ではないことが求められていると感じています。清水さんは前例主義がいいのか、新たなことをしたい人材がいいのか、お聞きしたい

清水 前例主義とは何を指しているのか、先ほど話した「温故知新」だよ。過去のこと、前例を知らないで新しいことをする、それはある意味、無駄なことだ。ただ、新しいことをやらずに、前のことをするなら、江戸幕府と一緒だよ。柔軟性の全くないあほ、そんなものはいらない。前例を知らずに新しいことをやるのは、リスクが高いとっている。過去にやった人たちは必ずいる。100万人に1人、天才はいる。1億人にひとり、アインシュタインやニュートンはいるかもしれない。俺たちはそこまでいいないんだよ。だとしたら過去の人たちが何をしたか、それを分析して、そのなかからやり方を選ぶのも、ひとつの方法だ。真似するだけでは何の進歩もない。現場、現実、

現物を受け入れる柔軟な思考と共に能動的でなければ意味がない。人生は短い。確率を上げるためには失敗例を排除して、成功したやつの中から、それを真似して進歩させる方が早いわね。柔軟性が大切。

— 大学3年、来年は休学して野球の独立リーグにチャレンジするつもり。好きな野球をしてみたいという好奇心から。好奇心を追い求めるのはどこまでかに悩んでいる。

清水 難しい問題だ。好きなことを追い詰めるのは楽しいと思う。だが、それはどこかで何かを捨てることだ。捨てるのをどこで選ぶかだ。選択肢は君自身にしかない。君が自分で決めるしかない。俺が親だったら「1年だけやって、それで普通に就職しろと、あんた食っていけないでしょう。」というかもしれない。親は君の生活や君の子どもたちに、血のつながりとして面倒を見なければいけないから。俺は他人だよ。どこで君が割り切るかだよ。俺は責任がとれない。ひとつだけ言えるのは、何かを捨てなかつたら絶対にだめだからね。「いつ」、これが重要。選択肢は君にしかない。1年間休学してやるのは賛成だ。社会人で二浪くらいは普通だからね。1、2年は戻せるよ。

2、3年の差は人生でも普通だ。しかし、それを5年となると、ちょっと苦しい。一番重要な時期というのがある。「8勝7敗でなんとか勝ち越します」というやつを信用しない。8勝7敗目指しています、ひとつ負けたら負け越した。こんなやつに重要なことは任せられない。2勝1敗は認める。それは10勝5敗だよ。よくできているんだ。2勝1敗を続けたら、プロ野球でも優勝できる。大相撲でも10勝5敗、2つ負けても8勝7敗、ふたつ勝てば12勝3敗。これを続ければ、大関、横綱になれる。その意味で2勝1敗を目指すのは正しい。100戦全勝というやつも信用しない。できるわけがないからだ。ひとつ負ければ落ち込む。2勝1敗だったら、1度負けても、なんとか取り返すといえる。2つ負けたら4つ勝てばいいと、自分の人生を振り返る。8勝7敗を目指すなんて、危なっかしい。100戦全勝はバカだ。ただし、絶対に重要な一番がある。ここで負けたら、いままでの勝ちが無駄になってしまう。この一勝というのが人生にはある。そのときに何を選択するかだ。これがある意味、強さの秘訣かもしれない。「ここ一番」であるんだよ、本当に。サッカー選手を例に、ここ一番で決めるか決められないかものすごく重要だ。選択するというのは、捨てるものを選択することだ。捨てたら後悔するな。考えたっていいことはない。ぐじぐじ布団を被って泣いていて

も、誰も助けてはくれない。言い方が荒くてごめん。

ー 某銀行グループは立ち直れますか。

清水 立ち直れないかもしれない。体質や企業風土は、簡単に直るものではないんだ。これを直すには5年10年は普通にかかる。こういう言い方がいいのかな。役所が遊園地を造って、すべて失敗している。役人の出来が悪いのか、違うんだよ。役人が人生を懸けてやってきたものって、今日を守ることなんだ。でも、遊園地とカリゾートの非日常性を演出することが重要なんだ。今日を守る、担保することを30年、40年かけてやってきた人が、非日常性を演出するなんて、できるのは1万人に1人だよ。それにやらせること自体が間違っている。その人の性格もあるが、30年、40年そこに浸かったら、そういう風になっていく。航空会社が体質を変えられたのは、倒産の危機を感じたから、(その条件を)飲まざるを得なかったからだ。簡単に変わるものではない。例えば某電気メーカー。トップを外からもってきたが、決してうまく行っていない。乾電池から原子力まで、商慣習も規模も技術も全く違うものやっていて、共通言語は数字だ

け。その数字で虚偽をしたら共通言語がなくなってしまふ。見事に立ち直りを果たした企業は、この共通言語に間違いがなかったからだ。ここに嘘をついて、共通言語がなくなった会社を立て直す、そんな簡単な訳がない。みな疑心暗鬼になっている。それで評価された。この部門が一番稼いでいるから、この部門からトップを出すってやってきた。それが虚偽だったとわかった瞬間にばらばらになってしまった。しかも技術も商慣習もロットも違う。乾電池は一個いくら、原発一個いくらよ。その点で松下、日立はよくやっている。数字に嘘がない。ある企業の例でも、共通言語は数字だけ。共通言語はカルチャーになる。それを崩してしまったときに、直らない。うちが証券会社を統合したときも、そのシステムを捨てさせた。さっき彼にいったように「何を捨てるか」を決めるのことが、決断だと思う。システム統合を1月4日にやるので、12月の最後の経営会議に、「正月休みにみなさんがどこかへ旅行に行くのは権利だから構わない。ただし、事が起こって集合をかけたときに、2時間以内に来れなかったやつはポストがないと思え。先に言っておくぞ」。それは当たり前だと思っている。航空会社もそう。大きな事故が起こったときに招集をかけて、2時間以内にこれないやつにポストはない。それが当たり前だと思っている。だから高い給料をもらっているのだけ



ら。それを徹底できるかどうかだ。それが徹底できない限り、無理だ。  
繰り返しにはなるが、それぞれの企業が持っている風土、カルチャーを変えるのは非  
常に大変。当然、時間もかかるし、難しい。相当の腕力が必要。



## 記念講演会感想文

明治大学 4年 保坂俊希

先日は、共修社へお越しいただき且つ、私も学生に非常に有益となる講演をいただき誠にありがとうございました。普段の生活を行っている中では聞くことの出来ない貴重なお話でした。私を含め、寮生皆大変感謝しております。当日残念なことに、私自身身体調を崩しており、耳を傾けメモを取ることは半分諦めていました。しかし、その中でも特に記憶に残ったお言葉を二つあげさせていただきます。

一つ目は、決断とは「断つことを決める」という言葉です。私はこの春から、山梨県の高等学校の教員として勤務する予定なのですが、この話は高校生にすべき話であるように思いました。時間は有限であり、すべてに手をつけていたら時間はあっという間に無くなってしまいます。高校生には時間が有限であるという実感は無いと思われるが、三年間しかない高校生活の中で、興味関心のわくことはたくさんあると思います。自分の興味関心に従い、様々なことに取り組んでほしいですが、何か一つその生徒自身

にとつて実になるものを見つけてもらうためにも、「断つことを決める」という考え方は伝えていくべきであると思いました。

二つ目は、「守破離」という言葉です。温故知新とおっしゃっていたように、何をすることも型というものは重要になってきます。私自身小学生の頃から野球を続けていますが、はじめは真似ることからスタートしたように思います。自分自身を作り上げるには先ず学び真似ること。これが重要であるととらえました。何かのプロフェッショナルになる過程において、私の指導する生徒にはとにかく学ばせ、まずは型を破るだけの力を身につけ、自分の型を作るべきだと指導したいと思いました。

お言葉の一つ一つに重みを感じ、これをつないでいくことが私のように教職に就く人間の使命であるとも考えました。自分のキャリアの中で、きつとこの講演が糧になり、何かに気づききっかけとなることと思います。このたびは誠にありがとうございます。

## 記念講演会感想文

早稲田大学2年 竹下航平

今回の講演会では主に二つのことを勉強させて頂きました。

一つは4年間の大学生活の中で自分だけの武器を身につけることの重要性です。私は環境資源を大学で学んでいるため、環境分野で何か一つ研究対象を見つけ、それに關する知識、熱意は負けないようにしたいと考えます。将来、私は環境資源を活かせる企業に就職し、山梨の持続可能な発展に貢献したいと考えています。山梨には富士山や温泉など世界に誇れる自然環境を有しています。太陽光発電や地熱発電など再生可能エネルギーの活用により、環境保全活動も取り組みながら地域全体が繁栄する。そんな夢の実現のため、今後も高い志を持つて勉学に励もうと思います。加えて、ただ学ぶだけでなく、実際にボランティアや環境保全活動に参加したり、多くの企業や研究機関と合同研究している大学の最先端の研究環境を積極的に活用していこうと思います。

二つ目は改めて仲間と協力・協調しあうことの大切さを認識しました。私自身も高

校時代の部活動の経験などを通じて何事も自分ひとりでは成し得ないと考えます。ひとりだけで考えて行動するのではなく、同じ志を持つ仲間と議論を重ねたり、協力して対応することにより実行スピード・確実性が高まるものと考えます。そのため、山梨共修社の仲間と日々切磋琢磨し、困難な状況に陥ってもお互いに支え合いながら、生涯付き合っていくことができるような絆を築いていこうと思います。また、今後講演会等の行事では多方面で活躍される先輩、卒業生の方と積極的にコミュニケーションを取り、自分の考えを深め、人生の目指す姿を確認し実行するようにしたいと考えています。

将来はコミュニケーション能力に磨きをかけ、大学で専攻した知識を武器として社会が直面している課題を解決するなど、仕事を通じて少しでも世の中に貢献できる大人になりたいです。日本が諸外国をリードできるよう、また、先進国としてこれからも世界から一目置かれる存在となるためにも日本の将来を私達が切り開き、創造していくという思いで、学問や社会貢献に取り組みたいと思います。非常に有意義な講演会でした。本当にありがとうございました。

## 山梨共修社を思う

堀内 康雄（昭和41年入寮）

私の共修社入寮の経緯は、7歳年上の兄（青山学院山学部卒）が寮でお世話になっており、兄より寮生活の良さを聞き及んでいたため何の迷いもなく、昭和41年高い競争率の中？小論文、面接試験をかいくぐり同期12名とともに入寮させていただきました。思い返せば今から56年前、少年老いやすく…光陰矢の如し。当時の寮舎は木造2階建コの字型、1階の玄関を入れて右側が食堂で2名の寮母さんが作る朝夕の食事付、左側のロビーには卓球台がありその右奥には元脱衣場の雀荘、試験期以外寮生が昼間から卓球や麻雀を代わる代わる楽しんでいました。我々新入寮生の部屋は、ロビーを過ぎ左折した角部屋の1号室から6号室の2人部屋。寮伝統の慣習、夜中に飲んで帰ってきた先輩のストームの洗礼を受けた時は驚きと怖さも感じたものでした。寮の年間行事、新入寮生歓迎コンパ・合コン・ダンパ・校友会等の経験は、今思えば自由と青春を謳歌できた楽園のような世界の出来事でした。

山梨共修社に思いをはせる時、まず目に浮かぶのは社監生原誠三郎先生のその恰幅の良い体躯と温顔です。学生に対する慈しみの心情がそのまま溢れているようなお姿でした。週末の来寮時、社友会へ来席時等に先生の聲咳に接することができたことは、在寮生活において得た私の人生の宝物となっております。

今年で創立120周年、今回の寄稿に当たり創立100周年記念事業で発行された「山梨共修社100年史」を改めて紐解いてみました。記念事業を推進された村松正志理事長、中村一雄実行委員長他多くの委員の方々への記念史作成に係るご努力に深甚なる敬意を表する次第であります。頁を開けば、明治35年2月山梨共修社設立にご尽力された八巻九萬翁(当時50歳)、前年より山梨県人学生寮設立を提唱し、資金集めに奔走した東京帝大学生満田寛一氏(後の大審院判事)、第一高等学校学生田邊治通氏(後の逋信大臣)、八巻良三氏(後の医学博士)の三氏他錚々たる方々が寄稿され、諸先輩のご貢献がつぶさに語られているのを拝見し背筋が伸びるのを覚えました。また、120年続く山梨共修社の歩みは、艱難辛苦を乗り越え、山梨県出身学生のため勉学に励める環境を提供しようという真摯な明治の先人達の情熱を集めて始まったことがよくわかりました。共修社設立後、出身の先輩方が日本の各界のトップに連なっていることを詳

らかに知り、改めて山梨共修社の素晴らしさを再認識した次第です。共修社の歴史に對する当時の私の不勉強を省みると、この誇り高い共修社の歴史を新入寮生に学ばせ矜持を持たせることは、寮存続に関わる重要な土台となるものと思われます。現在の状況はわかりませんが、歴史学習の重要性に鑑み新入寮生教育の一環として実行することを提案するものであります。

最後になりますが、生原先生が共修社敷地内石碑に揮毫された幕末の儒学者佐藤一齋の言葉「小にして学べば即ち壮にして為すことあり・壮にして学べば即ち老いて衰えず・老いて学べば即ち死して朽ちず」(言志四録)を在寮生へのはなむけの言葉として贈るとともに、僭越ではございますが、残り少ない人生の私を含めOBの皆様が学ぶことの大切さを振り返る言葉としてお贈りいたします。



## 緑のペンキ塗りの思い出

島田 敏男(昭和52年入寮)

私が山梨共修社で過ごしたのは1977年(S52)4月から1981年(S56)3月までの4年間。総理大臣は福田赳夫、大平正芳、鈴木善幸とコロコロ変わった時期でした。

当時の共修社は木造2階建てで、1954年(S29)に現在地に竣工・移転してから、すでに30年近くが経過。外壁も窓枠も傷みかけた木製で、「ボロだなあ」というのが第一印象でした。でもそれが「戦後の焼け跡に生まれた昭和の学生寮」の趣を湛えているようにも感じたものです。

中庭に面した玄関から上がると卓球台を置いたホールがあり、ほとんど毎日、ここで上級生と下級生がピンポン玉ラリーに興じていました。それが入寮から間もない時期に、日本女子大の新人寮生を招いてのソーシャルダンス教室に早変わり。高校までフォークダンスしか踊ったことがなかったうぶな男子が女性の手をとり腰に手を回

し、下半身が意図せざる反応を示すのを必死にこらえて四苦八苦する、まさに通過儀礼でした。でも、アメリカカングラフィティ的な思い出として忘れることはできません。

共修社で暮らすようになって意外だったのは、大部分の先輩が真面目に後輩を指導してくれたことです。代々継承すべきことを身をもって実践し、自分たちの手で自治寮を守るんだという気概を示していました。ダンスを教えてくれるのも上級生ならば、板張りの廊下の掃除やオイル塗も学年の上下に関係なく公平に当番を務めていました。そして4、5年に一度の「トタン屋根の緑のペンキ塗り」もそうでした。

「えっ屋根まで自分たちで塗るの！」と驚いたのを覚えています。秋の日曜日、前回経験したことがある上級生が指導役になって、塗装が浮き上がっている部分は金具で削り取り、四角い缶に入った新しい緑のペンキを刷毛で塗り込めていきます。ほとんどの寮生が参加し、青空の下、丸一日がかりで仕上げました。

プロのペンキ屋さんの仕事と比べれば拙い出来栄だったと思いますが、何となく共修社に対する愛着が増し、共同作業を通じて上級生と下級生の距離が一気に近づいたように感じたのを思い出します。

3年生の時に副委員長を務めました。自治寮の運営指導のために毎週洗足の自宅

から御越し下さる生原誠三郎先生の教えに接する機会は貴重でした。「寮の建物は古くても、自分たちの手で身ぎれいにすることが大事だ。近隣の人たちから『汚いから出ていけ』などと言われないように頼むよ」と微笑みながら語る先生の言葉は重いものでした。

こういう共修社を地域の人たちはどう見ていたのでしょうか。近所のマンションの御家庭に、私が4年生の時に家庭教師をしていた男子がいました。今では50代半ばのおじさんで有名企業の幹部ですが、長年にわたって付き合いが続いてきたので改めて聞いてみました。

「周りの住民は決して迷惑施設とは思っていませんでした。でも普段は中の様子が分からない。分かるのは女子大生が大勢やってきて、軽快な音楽とともにうきうきした空気が流れてくるとき。それと時々夜遅くに上級生が下級生に全員集合をかけて、大きな声で説教を繰り返す儀式のとき。少々うるさかったけれど、住宅街の風景に溶け込んでいたので悪く言う人はいなかったよ」こう証言してくれました。

「緑の屋根のペンキ塗りも家から見えていた。共修社の人たちは、あの屋根の上に平気で布団を干していたけれど本当は汚かったんじゃないの。でも自分たちで塗った屋根

だから気にならなかったんだらうね」

中学生の彼の眼には、夜中まで女の子の話を着に酒盛りを続ける部屋の一方で、机に向かって黙々と勉強に励む部屋の様子も映り、「大学生というのは自分の世界を持っているんだなあ」と感じたそうです。

立派な建物に生まれ変わってからの共修社は風景に溶け込んでいるのか。インターネット全盛で、いくらでも自分の世界に没入できる現代社会の中で、人間関係を育む学生寮の共同生活は、どうすれば意義が増すのか。そんな自問自答を続けながら、愛すべき共修社の未来を皆で支えていきましよう！

## 建て替えられた頃の山梨共修社

加藤 吉一（昭和56年入寮）

私が入寮したのは1981年、まさにバブル前夜といった時代であり、芥川賞作家・吉田修一の小説『横道世之介』の時代背景に（若干年代が違うが）よく似ている。

寮舎はコの字型の木造二階建て。キャッチボールができる中庭にバックネットと銅像、そして何本もの大きな梧桐があった。当初「この木造の寮で4年間過ごすのか：」と若干ネガティブな思いもあったが、期待のほうが大きかった。

寮生活は上野公園の「花見」に始まり、「新歓コンパ」「ダンパ」「合ハイ」「ソフトボール大会」などイベントが目白押しで五月病になっている暇もなかった。その後も「社友会」や「追いコン」、他にも、「総会」や「大掃除」、「屋根のペンキ塗り」など様々な行事があった。

当時は寮母さんがおり、望めば朝夕二食を食べることができた。毎夜、食堂は賑やかで、テレビの前は黒山の人だかり。話す言葉は甲州弁。トレーナー・ジャージに半テン

という不思議な出で立ちの人も多かったように思う。そして卓球や麻雀がいつでもできた。コーラの自販機があり、ドクターペッパーは根強い人気だった。電話は10円玉を入れる赤とピンクの2台の公衆電話。シャワーは有料で、風呂は周辺に4つほどあった銭湯を利用した。

大学2年の時(1982年)、創立80周年の校友会で、理事長の水上達三氏(三井物産相談役)が黒塗りのセシユリーに運転手さんを待たせていたのが印象的であった。

大学3年の時(1983年)、一番奥の坂本寮を残し、木造の寮舎が取り壊された。この年、新入寮生を採らなかつたものの、坂本寮だけでは全寮生を収容しきれず、私を含め、溢れた寮生は近所のアパートに住み、坂本寮前のプレハブの食堂へ通った。

大学4年の時(1984年)、鉄筋コンクリート4階建ての現寮舎が完成し、そこへ一年間入ることができた。

就職活動の時期になると「早く社会人になりたい」という気持ち芽生えてきた。なぜなら、この寮が快適過ぎたからである。誰からの束縛もなく、時間は自由。もともと「住めば都」だが、新築でさらに居心地も良い。反面、「怠惰な生活で自分が駄目になる」との危惧もあった。そうした矢先、寮でソフトウェア会社を紹介され、コンピュータ業

界へ入ることとなった。

こうして1985年、無事卒業し社会人になることができた。在寮中、寮舎は変わったが、寮生の気質は当然変わらない。多くの時間と若さのあった多感な学生時代を、他の寮生とともに様々な経験をし、酒を飲み、ほんの少し勉強をして過ごすことができた。それはとても貴重で幸せな時間であり、社会へ出るにあたって大いに役に立つモラトリアム期間であったと思う。



## 山梨共修社で得たもの

萩原 弘基（平成9年入寮）

1997年、大学入学が確定し、親元を離れ一人暮らしに憧れを持っていた私は「大都会東京」での新たな生活を想像し、心が躍っていた事を覚えています。

あまり広くはないワンルームになるだろうと仮定しロフトタイプの部屋が良いだろうか、いや、就寝時の際、乗り降りが面倒になるだろうか。直ぐにアルバイトでお金を貯め、欲しい家電、家具、ゲームなど揃えて充実した生活環境、そう！自分だけの城を作るんだ！

などと毎日のように考えておりました。

しかし、知人より紹介された「山梨共修社」の存在を両親が知り、雲行きが怪しくなり毎日心躍っていた私は大きな不安に包まれ始めた。

山梨共修社？男子寮？類い稀な才能を持つスポーツ選手でもなければその世界で活躍しようと目標を持っているわけでもない自分が？そもそもこの時代にわざわざ寮に



入る学生がいるのか？いくつもの不安と疑問符が生まれました。

もちろん答えは「絶対に嫌だ、寮なんて入らない。一人暮らしをする」であった。

私自身、人の輪の中にどんどん入り込むタイプではなかったし、他人と一緒に住むなんて苦痛でしかなく何より上手く付き合いが出来るか不安だった。

社会で必要になってくるもの、人脈や人とのコミュニケーションなどが自然と身に付いて勉強になると説得され、悩みに悩み、自身が思い描いたキラキラとした夢の一人暮らしを諦め1997年3月下旬、山梨共修社へ入寮した。

同期は私を含め10名、入寮後一年間は前期・後期で部屋、相方を変えるシステムで約半数が富士吉田市出身だったこともあり私は1年を通して富士吉田市出身の者と過ごした。

初めの頃はお互い緊張もあり、距離を感じたものだがそこは同じ同期そして男。直ぐに打ち解け、比較的広い部屋だったこともあり、連日富士吉田の者たちが集まるようになった。

自身では気付いていなかったが一緒に共同生活する中で人とのコミュニケーション

学習が毎日、自然と行われていたのである。そこには入寮前に不安や疑問符を持っていた私ではなく、同期と夜な夜な楽しく過ごす私があった。

当時のことを思い返すと、新寮生の歓迎会を兼ねた上野公園で行われる伝統の「花見」は皆の記憶にも鮮明に残っているのではないのでしょうか。

現在では考えられないが、先輩方が交代で取った広い場所の中央に鎮座する酒を積み重ねて作ったピラミッド型に姿を変えたビール達。新寮生一人ひとりが公衆の面前で自己紹介、校歌や学歌を披露しなければならぬあの行事である。

私は東京農業大学でしたので「大根踊り」を披露した記憶があります。

これを飲み切るまで帰れないと脅され、ひたすら飲み続け、吐きそうになったら用意しているビニール袋を先輩方に見られないよう、後ろを向いて吐く。そしてまた飲む。

テレビ局もまだ中継に来ていたくらいの時代ですが今で言う、パワハラです(笑)

この日ばかりは一級上の先輩方が最後まで付添をしてくれるわけですが付き添う先輩方も大変だったかと思えます。これも「しっかり面倒を見る」という勉強なのでしょう。

宴が終わり、寮に戻った新寮生は皆、寝落ちしておりましたが飲めるタイプの体質だったため、シャワーを浴びていたところを先輩に見つかり「こんなやつ初めて見た

わ！」とまた先輩の部屋で飲まれた記憶があります(笑)

後日からは先輩一人ひとりの部屋を数日掛けてすべて回らなければならない「挨拶回り」があり、また酒、酒、酒の日々。。。本当によく飲みました。

これがきっかけで可愛がって頂き、色々と飲み連れて行って頂けたことも事実です。

現在では許される行為ではありませんが、人前でハッキリと自身をアピールする度胸は少し身に付いたかもしれません。

私がまだ一年生の前期あたりまで寮母の食事があった頃で、アルバイト等で不在時以外は食べていた記憶があります。時代の変化もあり、多くの在寮生がアルバイト等で夕食が必要なくなり、流れとともに寮食がなくなったような気がします。

伝統行事であった東京家政大学の女子大生との合同ハイキング通称「合ハイ」も私の頃にも残っており、豊島園に行き、寮で懇親会をした記憶があります。

大学2年になると部屋は一人部屋となり、個人の時間は増えたが何処か寂しい気持ちも多少感じた自分もいた事を覚えています。

ウイスキーを抱えた先輩が私の部屋で美味しい飲み方を教えてやると飲み始め、その日からウイスキーにハマり、毎日のようにその先輩とウイスキーを飲み干した日々は

良き思い出です。

この美味さを後輩にも教えようと私が後輩の部屋に行くようになり、その後輩もハマり、一緒に飲むようになる。

酒の話ばかりで恐縮ではあるがこれこそが「寮」の良い所ではないだろうか。

良い事や楽しいと感じたもの、経験談などを直ぐに共有できる場所「同じ空間、場所に  
いる者」寮「他にもツールはあるだろうが「寮」もその一つだと感じます。

あれほど一人暮らしを夢見た私が「山梨共修社」に入寮して良かったと社会人になつてからより強く感じます。

時代遅れと言われるだろうが、まだ色濃く残る縦社会の日本で上下関係で苦勞することもなく、現在でも連絡をする先輩、近状報告をしてくれる後輩がいることが何よりの財産であり、寮生活があったから得たものだと思っております。

現在は全ての部屋が一人部屋でアパート化していると聞いているが、時代の流れからすると当然であり、より良い環境で生活する上では必要だと感じております。ただ、一つだけ。

先輩、後輩の部屋の行き来は時代が変わってもあって欲しいと切に願います。

## 山梨共修社への思い

藤巻 良太（平成22年度入寮）

山梨共修社の設立120周年に際し、お祝い申し上げます。山梨共修社はこれまで多くの山梨県出身学生を支援し、豊かな学生生活を送るきっかけとなってまいりました。私が山梨共修社を知ったのは両親が新聞を読んでいた際、偶然山梨共修社の入寮者募集の記事を発見したことからになります。そのころ私は大学進学が決まり武蔵大学へ入学予定でした。東京で新たに生活するにあたり山梨共修社を見つけ入寮できたことは、私にとっても両親にとっても大変ありがたいことでした。山梨県から都内の大学へ進学する学生は数多くいるかと思いますが、都内のマンションへ一人暮らしするとなると、家賃も高く金銭的な負担も大きくなります。そんな中、山梨共修社は安価な寮費で立地もよく山梨県出身の都内大学へ進学する学生、家庭を多く助けてきたことでしょうか。私もその一人です。実際に入寮し生活をしてみて山梨共修社には皆さんの良いところがあると気づきました。現在とは異なる仕様かと思いますが、私が

入寮した当時はまだ1年生、2年生は相部屋の時代でした。この仕様こそが山梨共修社の良いところのひとつではないかと思えます。地元を離れ一人で生活することになる学生にとって、同じような境遇の仲間がすぐ近くにいうことはとても大きな支えになります。1年生から4年生まで約40名の学生が同じ屋根の下で暮らすこととなります。それぞれに役割があり共同生活を行っていく上で多くの学びを得ることができました。その経験は社会人になった今でも活きており私自身の助けとなっています。寮生活というのは楽しいことばかりではないですが、大変なことより楽しいことの方がはるかに多くあったように思います。同じ学年の仲間が集まり鍋パーティーをし、朝まで麻雀、ゲームで遊んでいた日もありました。大学の課題でわからないところがあれば仲間に相談し解決できたことも多々あります。皆初めて会った日から寮生活をともに過ごすことで絆が生まれていきました。在寮中に築いた関係は卒業し8年経った今でも続いています。ここまで深い関係を築けたのも山梨共修社の存在あつてのものです。卒業後も、数年の間は時々山梨共修社を訪れていました。卒業後の数年の間で山梨共修社も少しずつ変わっていったのだと感じました。相部屋がなくなり一人部屋へ、シャワー室も個室と変わりました。少し相部屋がなくなり寂しい気持

ちもありますが、時代の変化へ対応していくことも山梨共修社が存続していくことには必要なことかと思えます。形は変わったとしてもこれまで多くの学生を助けてきたことにかわりはなく、これからも山梨県出身の学生の助けになり学びの場として存在し続けて欲しいと思います。コロナ禍において世の中では暗いニュースが多い中、山梨共修社120周年の節目に関われましたことを大変うれしく思います。山梨共修社のご発展と、在寮生、卒寮生皆様方のご活躍をお祈りしております。



## 「創立120周年に寄せて」

異光司（平成26年度入寮）

この度は、山梨共修社の創立120周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。また120周年という一つの大きな節目にあたり、その歴史を綴る本誌に携われることを大変光栄に思っております。私は平成26年より大学時代の4年間を山梨共修社でお世話になりました。

当時を思い出すと濃い学生時代であると同時に社会人にとって必要な能力が培われた大学時代であったと思います。当時の在寮生は個性的な人が多く、今でも顔が思い浮かぶほど良い意味でも悪い意味でも多くの刺激をもらいました。深夜突如、部屋のドアがノックされ始まる飲み会や体を張った一発芸など数々の試練は有りましたが今となっては良い思い出です。年齢、性格、大学もやっていたスポーツも違う、ただ山梨県出身という共通点があっただけの共同生活はこの寮ならではのものだったと思います。その中で色んな人の意見や価値観に対し共感し合い、時にぶつかり合うことがで



きた経験はかけがえのないものでした。

またいつの日か山梨共修社の方々とでお酒を飲みながら肩を組んで「盆地十里に花は散り♪」と社歌を熱唱できる日が来るといいなと思います。

末筆ながら、山梨共修社の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 山梨共修社寄稿文

慶應義塾大学四年元寮長 宮川一彩

2022年山梨共修社は120周年を迎える。山梨共修社の1902年から続くこの男子寮もさまざまな時代の中存続し社会に山梨県出身の優秀な人材を輩出してきた。時代が経るにつれて建物や寮全体の雰囲気などは変わっても東京の大学で学ぶ学生の憩いの場である山梨共修社の存在は変わっていないような気がする。私たちの世代はこの山梨共修社のありがたさを感じた年代なのではないだろうか。私は2019年に大学に入学した。山梨県出身の自分からすると東京での大学生活は全てが新鮮であり、驚きの連続の日々を過ごしていた。そんな中で2020年から新型コロナウイルスが流行し始めた。最初のうちは感染者数も一桁台であり、寮生も気に留めている人が少なかった印象だ。しかし、事態は思っていたよりも深刻だった。新型コロナウイルス感染拡大防止のために都内に緊急事態宣言が発令された。この宣言下で都は不要不急の外出を控えることを余儀なくされてしまった。

この宣言が発令されたことがきっかけではあるが、外の居酒屋で大人数の飲み会をすることが社会的に悪いことだと見做されるようになった。街が一気に閑散としていたような気がする。今までの当たり前前が当たり前前ではなくなってしまったと言葉をよく耳にした。人に会うということ自体が難しい世の中になってしまった。そのような状況の中でこそ山梨共修社は真価を発揮したと思う。他の大学生が外に出られず、1人で自粛生活を送っている中、私たち寮生は隣の部屋を訪れば友人がいる。ロビーに行けば誰かが談笑をしていたり、麻雀を打っている。この寮の強みの一つである人と人とのつながりをよりリアルに実感することができた。実際に2020年に入寮した代の寮生は『寮が楽しそうだと友達に羨ましがられる』と言った話も出ていたようだ。寮での大人数での飲み会は自粛せざるを得なかったので庭でのBBQを催したりなど、制限された中でも寮生で何か楽しめることはないかと考えながら生活を送っていた。また、大学での対面授業がオンラインになったり、サークル活動ができないうちで縦の繋がりが持てない新入生が多い中、山梨共修社では多様なバックグラウンドを持つ多く先輩がいるので心強かっただろう。このように緊急事態宣言下の生活は寮生の力と寮自体の強みでなんとか乗り越えることができた。その後新型コロナウイルス

イルスの感染拡大は収まっていった。収束後も今まで通りの外の居酒屋で宴会などではできないため、寮のロビーで寮生みんなでタコパをしながらオリンピックピックなどを見るなど工夫しながらの生活を送ることになった。そんな生活にも慣れてきた2022年の初めにコロナウイルスの新たな変異株であるオミクロン株が大流行した。このオミクロン株は今までの新型コロナウイルスと比べても段違いの感染力を持っていた。以前の時の流行で慣れてしまっている中でさらに感染力の強いウイルスの流行によって多くの感染者がでた。山梨共修社でも何人か陽性者が出て、隔離生活を余儀なくされる者も出てきた。ここで感染症が蔓延した際の寮で集団生活を送ることの問題点が顕在化した。山梨共修社ではシャワー室やトイレが共用のため、どうしても寮内の集団感染のリスクがついてまわってしまう。どうにか寮内での感染を防止するために自治委員会ではシャワーの使用時間をずらし十分な換気を行うことや、寮内各所にアルコールを置き適宜消毒をすること、感染者が出てしまった際のマニュアルを作成し、それに則ってスムーズな処置を行うことなどを徹底した。このような対策と前提となる個人の手洗いなどの対策も功を奏して現在は安全な寮運営ができています。少しマイナスな面も述べてしまったが全てが全てがマイナスなわけではない。寮生に感染リスクがある

ように一般の一人暮らしの学生にも感染リスクはある。その前提の上でもし感染してしまった場合寮生同士で協力して身の回りの世話を払いそれで人の温かみを感じられる。私はこのコロナ禍に寮長を務めることでより人と人とのつながりの大切さや協力して何かをすることの大切さを学ぶことができた。また、今まで同様に山梨共修社はコロナ禍においても十分に存在意義を果たしていると感じてきた。

山梨共修社 創立120周年記念誌

寄稿者による座談会

— 開催日時 — 令和4年6月18日(土曜日) 午前10時より12時

— 開催場所 — 山梨共修社 談話室

— 寄稿者 —

70才代 堀内康雄／山中湖村村議(元富士急行(株))

60才代 島田敏男／NHK放送文化研究所 研究主幹

50才代 加藤吉一／(株)コンピュータマインド社長

20才代 巽光司／(株)山梨中央銀行荻窪支店

〔欠席〕40才代 萩原弘基／塩山洋酒醸造(株) 社長

〔欠席〕30才代 藤巻良太／(株)サカイ引越センター

現役寮生 宮川一彩／元寮長



巽 光司



堀内 康雄



宮川 一彩



島田 敏男



窪田 幸唯



加藤 吉一

— 記念誌編集委員会 —  
窪田 幸唯  
鈴木 利秋  
矢崎 秀行

## 山梨共修社創立120周年記念誌

寄稿者座談会

於 2022年6月18日 山梨共修社談話室

## 司会

今回、寮が創立120周年ということで記念誌を発行することになりました。100周年の時は記念誌が刊行され、110周年の時は島田さんの講演会(於 甲府・ホテル談露館)が行われました。今回も10年の節目ということで記念誌を発行しますが、いままで寮の歴史が伝聞であったりしたので、文字に起こして記録することが大事ではないかという結論に至りました。

10歳差ぐらいの年齢層をめどに、各々、原稿を依頼しました。それぞれが年代によって微妙な違いを知り、逆に共通する想いもあるであろうということを、この場で話して合っていただけだと思います。

## 自己紹介

堀内康雄 昭和22年生まれで74歳、寮は昭和41年からお世話になりました。兄が寮生



として世話になったことが縁でした。出身は富士吉田市。下吉田中学校から甲府一高に進学、慶應義塾大学文学部を経て、富士急行の不動産部門を担当していた。現在も不動産業を営んでいる。山中湖村議。

**島田敏男** 昭和52年から56年まで、まる4年お世話になりました。まだ建て替えになる前で、木造の思い出を語らせていただきました。甲府一高―中央大学で、最初は駿河台、2年生からは八王子の多摩校舎にかようことになりました。大学には週一日か二日くらいで、共修社にいる時間が凄く長くなったことを思い出します。学生時代の、極めて長時間を過ごした場所が木造2階建ての寮でした。それが人生にどう影響したかは謎のままです。NHKの記者として社会に出て、政治記者をやって、政治の解説委員、現役時代の最後は名古屋のNHKの局長で、これでサラリーマン生活も卒業かと思っていたら、65歳までは愛宕山にあるNHKの放送文化研究所で研究職、永田町を対象にした研究職の日々です。一昨年から寮の理事を仰せつかり、同世代の皆様と120周年記念誌のお手伝いをさせていただいています。誌面にはでてこなかったが、そんなこともあったのかという話が出てくることを楽しみにしております。

**加藤吉一** 昭和56年から60年までお世話になりました。在寮中に建て替えとなり、1、

2年生の時に木造のコの字型の建物、3年生の時は1年間立て替えて、その時は坂本寮だけを残してつぶし、入りきれないのでまわりに下宿していたのですが、1年間は新入寮生はとらないで、プレハブの食堂を建てて、そこに皆が集まっていたような時代でした。当時はまだ寮母さんもあり、新しい寮が建つてからも寮母さんがいるような時代でした。卒業後はソフト会社に就職、システムエンジニアをしていたが、その後、何人かの知り合いと独立、いまも株式会社コンピュータマインドを経営、社長をしております。会社はソフトウエアの開発をしているが、産業用機器のソフト開発(半導体製造装置の制御ソフト、顕微鏡の制御ソフト、AIによるモノの選別装置、眼底検査装置などで病巣を初期診断をする)をしている。共修社の理事を一昨年やらせていただけだっている。常任理事のお誘いも受けている。荻原さんの後任ということで、大きなプレッシャーを感じている。

**巽光司** 2014年に入寮、4年間を過ごしました。2018年に卒業、株式会社山梨中央銀行に入行、社会人として5年目を迎えています。南支店など県内支店をめぐり、去年の4月から荻窪支店(杉並区)に異動、営業担当として働いています。まだまだ未熟ですが、山梨県の経済のためになればという気持ちです。20代表という位置づけ

だが、名だたる先輩方のお話が聞けるといふことで、参加させていただきました。巢鴨駅から寮に向かう道中に、まだまだ記憶も新しいが変わっているところもあり、なつかしい気持ちで寮にきました。

**宮川寮長** 慶應義塾大学経済学部在籍、甲府市立北東中、甲府西高、進路先は証券会社に内定、入社することになっています。

**司会** 当時の寮生活の思い出などを堀内さんから順次、お話しただけですか

**堀内** コの字型の寮で、当時は床に油を塗るような時代でした。食事が2人の寮母によって朝夕まかなわれていました。夜は時間制限があって、時間がきたら手の付けていない食事をほかの人が食べてもいいという決まりがありました。食堂が寮生のコミュニケーションを取る場所になっており、楽しかった記憶があります。学校に行かず、だいたいここにいたので卓球、麻雀、庭でソフトボールなどをしました。冬はスキー部もあり志賀高原に行ったこともありました。いろいろな楽しみ方ができました。

**司会** さきほど銅像がどの辺に建っていたのかとか、あの字は誰が書いたものか確認したところ、生原先生の言葉、自筆のものが石碑に切つてあるとか、昭和59年(80周年記念)に石碑を建立したようです。

**堀内** 坂本先生の碑の場所、八巻先生の胸像が入口にあり、当時の仲間と酔った時のエピソードを思い出します。寮の中で先輩後輩と一緒に生活しているという実感がありません。先輩の後輩に対する思い、交流のなかで人間形成をしていったような記憶がよみがえります。勉強していたひとは一発で司法試験に受かるなど優秀な人も多く、いろいろな人とお付き合いして、酒を飲みました。生原先生が定期的に寮にいらっしゃることで、ふれあいがあり、生活の重要な要素を占めていました。

**司会** 生原先生は月に何回か、土曜日にいらっしゃっていましたね。生原先生が来ることで、学生の自治寮と言いながら、広い意味のコントロール、道を外さないような指導を長年、やられていたということですね。

**堀内** 「大いに遊びなさい」とはいいながら、「生活はしっかりやりなさい」という教えもくどかったです。言葉は言わずとも、通りがかっただけで感じるものがありました。

**島田** 学校には通わなかったクチでした(笑)。私と同室を組んだ人たちが証言すると思うけど、良く寝る奴だったと思われるかも。編集委員の矢崎さんも同室、一緒に民放テレビ局を受けに入って、一緒に落ちました。思想信条調査的なことをする会社だった。試験科目に思想信条調査に類するようなものがありました。

堀内さんがおっしゃったように、生原先生との思い出がたくさんあります。生原先生が平成6年に理事を退任されているようですが、晩年は体調を崩しておられたようで、心配していました。自分たちが寮にいた頃は毎週お目にかかっていた、敬愛していたものですから。先生が亡くなった折、身を引くとおっしゃった寮母、田中さんとのやりとりも思い出しました。

**加藤** 木造の寮、夜な夜な部屋の前にサンダルが並ぶ部屋に、次々と人が集まっていたという記憶があります。サンダルがサンダルを呼ぶといいますか。島田先輩が書かれていたペンキ塗りの作業も印象に残っています。ペンキを塗りながら人を囲うようないたずらをした記憶、大掃除で、古いながらも大切に使用していたことを思い出します。それなりに良い寮だったなあと。新しい寮で生活したのは1年間だったので、新築ですごく綺麗な寮舎だったのですが、それからしばらく経ってここに来たときに、汚れていたことが少しショックでした。一時期、荒廃の時期があったかなと思います。自主管理で、それなりにきれいにしていたと思います。生原先生が毎週土曜日にいらっしゃるので、来寮前はきれいにしておけ、と熱心にするような感じはありましたね。生原先生のお話で言えば、今、お孫さんが山梨中央銀行の本店にいらっしゃいます

ね。うちの会社へもよく来てくれます。彼は共修社と直接関係はないのですが、会うと、「おじいさんにはお世話になりました」と話します。山梨中央銀行の監査役を経て専務取締役をしていた生原さんの息子さんです。お名前を拝見して気がついたことがあるのですが、出席者の異さん、お父さんが私と同級生ですよね」「はいそうです。父も銀行員で共修社に入ったつながりでも私も入寮しました」（異氏）私も、異さんのお父さんとは大学も学部も寮も4年間、一緒でした。うち（加藤氏）の息子も共修社におりました。団体生活が生かせるかどうかは人次第ですよね。ほんとは団体生活の方が良いとは思いますが、昔の時代で言うと、いまでいうハラスメントなんかは普通にありました。それはある意味社会の縮図で、良いとは言わないが、それを普通に体験できたのは（耐性を磨く上で）良かったかなと思います。今は何でも激しくて、人間の本質さえも否定してしまうような風潮はよくないなと思っています。

**司会** そういう意味では集団生活における心のトレーニングでも、捉えられそうですよね。  
**加藤** 陰湿ないじめは良くないが、いじめられても社会の中で生きて行くにはどうしたらいいのかという勉強の場にもなっていました。そこが集団生活のよさのひとつであると思います。いまは声を大にして言えないご時世ですが。

堀内 人間の多様性、ダイバーシティを学んだと：

加藤 まさにダイバーシティです。いろんな方がいらっしゃったので、育ちなどの環境も違う中で、(寮生活という)共通性をもちながらやっていく、それはいいことだと思います。

堀内 我々の時代は昭和40年代、いじめの定義に当てはめられるようなことはなかった気がする。

加藤 我々の時代はありました。(笑)

堀内 先輩から説教を受けることはあったが：

加藤 我々は「朝礼」をやられました。

司会 「朝礼」というのは、日付が変わる午前0時ごろから1年生当たりが集められて、「社歌を覚えろ」。

加藤 花見に連れて行ってもらった先輩からビールを飲まされて、皆、べろべろの状態で寮に帰ってくると、寝静まったところにバーンと「起きろ」。面白かったという側面もありました。



堀内 桜の花見で上野あたりへ連れて行ってもらって、ものすごい量を飲まされてというようなこと、我々の時代にはありませんでした。

島田 我々の時代にはありませんでした。いつかアルコールに関する事故が出るんじゃないかと心配だった。

司会 新入生歓迎コンパの前、4月第1週くらいで500円ずつ集めて、「上野へ行くぞ」

島田 上野公園のあの花見の広場で、大勢が見ている中、「芸をやってみせろ」と強制され、できないと「さあ 飲め」「人間を失ったらできるんだ」と注がれる。最後は人間じゃない状態になって、担がれてここに帰ってくる。そこから「朝礼」。それがあの時代は結構続いていました。我々より上の世代はもっと野蠻だと思っていたが、そうではないと聞くと、我々の方が野蠻だったのかな。それが耐えられなくて、1年経たずに辞めた子もいました。

堀内 それだけ激しくやると、とても耐えられない人もでてくるね。

島田 異さんや寮長の時代は、集団で飲酒強要みたいなことは全くないですか？

異 ありました。結構、お酒は飲みました。ただ自主的で、自由な意志での飲酒です。



**島田** この場所は今でも飲酒は自由、たばこは決められた場所で喫煙可能ですね。一応ルール化はされているようですね。

**司会** 酒の席にでてくるのはビールが主でした。当時、飲酒事故が多くて、世の中に一気飲み禁止の風潮が広まり、安堵（あんど）していました。

**加藤** 当時は大変でした。学生のころはビアガーデンに行くと、大きな1リットルのジョッキがあったり、なべのふたをおさえて飲まされた。世の中がバブルに向かう時期で、なんでもかんでも一気飲みの時代だった。

**島田** 世の中自体がそういう風潮だった。

**司会** 今は一気飲みは禁止ですか？

**巽** ありますね。いまはゲーム感覚で、自分が飲まないとゲームが終わらない状況に追い込まれます。ゲームに負けて一気飲み、酔った状態でまた負けると一気飲み。頭がぐちゃぐちゃになります。王様ゲーム、古今東西ゲーム、山手線ゲームあたりですね。

**島田** 酒の飲み方は世の中の映し鏡みたいなものですね。

**司会** コロナ以前、部屋を相互に訪れて楽しむようなことはしませんか？

**巽** 普通にあります。プライベートはなかったですね。先ほど話しに出た、スリッパ

のたまった部屋は、逆に避けていました。ここでこわい先輩に酒を飲まされたり、何か言われるとやかいかいだから逃げようとなってしまふ。酒の好きな人は飛び込むこともありませんが、反対に飲めない人もいて、酒に対する感情は、大きくわかれているようでした。

**一同** そうか、当時とは逆なのか。無理に飲めということはなくなっていったようだね。  
**寮長** 今は部屋よりもロビーによく集まります。談話室で酒も飲みますし、麻雀もします。スポーツの実況を見たり、鍋を作ったりするので、ロビーにいる時間の方が長いかもしれません。

**島田** サッカー日本代表のテストマッチやオリンピッククなどが行われているときは、ここがスポーツバーみたいになりますね。

**寮長** 観戦しながら飲んで、鍋を食べて観戦します。みんなで見るのが楽しいですね。  
**堀内** 自分たちの頃は15インチくらいの小さなテレビで、手動チャンネルを動かしてみていました。

**司会** テレビなどのマスメディアの視聴方法も違うし、電話も今はスマホですね。

**堀内** 当時は食堂付近に電話が2台あった。他校の女子たちとの連絡手段も公衆電話

や黒電話の時代だった。

**司会** 女子大生に社交ダンスの指導を受けたことがあった。はじめて手を握った場所が、ホールだった。

**堀内** ダンスパーティーはもちろんあった。目黒パークレーンズなどで。女子栄養短大や東京女子大などの女子寮に声をかけて、5人くらいを招き、寮でダンスの指導を受け、本番のパーティーに向かった。

**島田** ダンスホールを借りて、パーティーを開く伝統は、我々の時代も続いていた。

**加藤** 私の時は、日本女子大の寮から女子学生を招いていた。五反田のダンスホールが本番会場。その伝統は続いていたと思う。

**寮長** 昔はあったということは聞いたことがある。

**司会** 40代の寄稿者(萩原さん)によると、1年生の時は「合ハイ」(合同ハイキング)もあったと書いている。ダンスパーティーはすでになかったようです。その時期は生



原先生も完全に引退をされていました。大人が寮にタッチしてない時期と言えるかも  
しれません。かなり中も汚くなっていった。

**加藤** あの時代に、いろいろな行事がなくなっていたのかもかもしれません。

**島田** 合ハイは続いており、先輩のいる富士急行にはずいぶん世話になりました。

**堀内** 共立女子大も参加していた。

**加藤** 我々の頃は青山学院短大、東京家政も一緒だった。

**巽** 個人的に付き合いがある人はいたが、集団で催しをするようなことはなかった。  
そういうイベントがあれば面白かったと思います。

**島田** 昔よりも共学が増え、女子大そのものが減ってきたこともあるだろうね。

**司会** 男女交際の仕組みを先輩から教えてもらえた。

**島田** 東京でデートをするならどういうコースがいいとか、女の子が喜びそうなこと  
を、得意そうな先輩の部屋をノックして、教えてもらうとかありましたよね。

**寮長** それは今もあります。

**司会** モテる奴は悔しいほどモテた。

**加藤** 寮に帰ってこない先輩とかいましたね。

**島田** 寮に帰ってこない先輩でも、最後まで追い出されずにいた人は、自分のつきあっていた女子学生の下宿にいるとしても、この寮の掃除当番はちゃんとやっているという存在を示していた。

**加藤** 総会とかは欠席しませんでした。

**島田** 女性の所に早くから出入りしているような人で、寮の最低限の責任分担に思いが至らなくて出ていってもらった人はいました。慣れてきた人は後輩とかにきちんとして、将来は女のことでも苦労するんじゃないかという目で見ていました。

**司会** 寮の清掃や環境整備については。

**寮長** 週一回は必ずあります。全寮生を3班に分けて、週ごとに班が交代で清掃当番をしています。上級生も下級生も関係なく。

**巽** その後、掃除のメンバーで飲みに行ったりもします。

**島田** それがいいんだよね。サボった先輩がいれば後輩の評判がわるくなったりする。  
**司会** 昔は「清掃ノート」というものがあつた。とりとめのないことを書いたりしているのですが、これが有効なコミュニケーションツールになっていたりしたようです。

**島田** 文筆の才がある人は長文を書いたりして、これがまた読ませるといふようなことがあります。その後、ワープロ、パソコンの時代で、廃れていったのかも。

**寮長** 行事の連絡、欠席届などもすべてLINE(ライン)で行っています。ノートでのやりとりはなくなりました。

**司会** リアルなコミュニケーションしか経験がないので、仮想空間では感情がぶつからないような気がするのですが。先ほども出た心のトレーニングの面でも。

**島田** 当時はそんな道具はなかったから、いやなことをどう凌いでかわしていくか、その一方でいいものはどんと自分たちの方で引き寄せ、リアルな体験として良き思い出を残していく。集まったときも良き思い出として酒の肴にもできる。リアルの世界は、極めて共有度も高い。

**寮長** 先輩方の話を聞くと、(寮生同士の)関わる機会が多いと感じました。オンラインで、いろいろできることも減って、さらにコロナ禍で会うことも少なくなりました。



**司会** 基本的に相部屋だったので、否が応でも顔を合わせるが多かった。

**寮長** それは1年生の時だけではなくて？

**司会** 3年生ぐらいまで。

**加藤** むしろ個室が少なかった。

**島田** 個室は4年生になってからだった。

**司会** 逆に個室になると、寂しくなるような気がした。

**寮長** 1年時は相部屋で、2年から個室に移っていきます。当時はどのくらいの寮生がいたのですか。

**島田** 人数が50人を超えないのは、それが理由か。木造の頃は51人でした。

**加藤** 新しい寮になっても50弱だと思います。建て替えるときに生原先生がすべて個室にすると言ったんですよ。われわれ学生側が「それはやめてくれ」といいました。半分2人部屋で残りを個室にしたりしました。

**司会** 個室と2人部屋の人気は？

**寮長** 1人が好きな人がいれば、2人が好きな人もいます。

**加藤** 1年生の時は、ある意味強要でした。自分たちで選べないのですから。

**寮長** 相部屋の遅く出る同僚が灯りを消さないで部屋を出て行くなど、問題は起きませんでしたか？

**加藤** そんな問題、そこら中にありましたよ。(笑)問題にならないくらいのレベル。

**司会** 社会全体に理不尽が当たり前みたいなどころがなかったですか。神経質では生きてゆけないみたい。いまは全体が繊細な感覚なのかな。もう少しいい加減な、図太いくらいが…。

**加藤** あしたの用事があるから早く寝たいという人間の横で酒盛りしているような…。

**司会** そもそも、大学に行かない奴の方が多かったような。いまはきっちり行くでしょう。

**島田** 大学が昔と比べると出席重視に変わってきている。自分が出席するだけではなく、その先生の授業に対するコメントまで要求するようになってきた。先生を君らが評価できるんだよ、みたいな口実で出席を調べ、親に通知する材料にしている。この10年、15年でツールが発達するに従って手を変え品を変えて大学側がすべてを管理しようとして、金を払ってくれる親に、管理の実績を報告するようになっていく。このビジネスモデルみたいなものが定着している。大学で授業をもって教えているんだけど、



実際、驚いた。私は出欠調べはしない、レポート提出と君らの日常のリアルな対話の中でしか評価しないという、皆がおったまげていた。どこの大学でも出席管理は厳しいようです。

**寮長** ICカードをかざすことで、出席を調べている。

**島田** われらの時代にはそんなもの（ICカード）は存在しなかった。共修社の特徴は、それぞれ大学が違うから、多様性を大きくかき回すことに役立っている。だけど全体がひとつの色に染まり始めてきた。それが現役学生、寮生の生活に様々な影響を及ぼしている。

**司会** いまの学生は少しかわいそうに聞こえてくる。

**島田** それはちょっと自己肯定感が強すぎでは（笑）。相部屋の話で言うと、共修社は学生の方から相部屋を残して欲しいという要望があったくらいで、それは健全だと思う。防衛大学の例で言うと、昔から先輩と後輩が同室で8人くらい生活し、生活指導や勉強の指導も面倒をみてい



だが、それでは若い人材が集まらないという声があつて、90年ぐらいから変えた。当時はバブルの影響もあり、防衛大学校だけが昔の軍隊の寮のような形式で、受験生が集まらなかった。そこで変えてゆるくしたら、学生の勉学能力、素行も悪くなってしまった。親からもこんなぐちゃぐちゃな生活のところには預けたわけではないという苦情がいっぱい来て、90年代の最後の頃に、再び大部屋制に戻した。それをいまも踏襲しているという話を、防衛大学校の校長から聞いた。10年くらい一般の学生と同じような、自由を謳歌できる個室とかを取り入れたが、効果は全然上がらなかった。学生も孤独感を訴える生徒たちがでてきた。肉体的にも精神的にもきつい授業の中、参ってしまうような学生が続出、親の心配もあつて元に戻した。かわりにパワハラには従来に増して目を光らせるようにした。一緒に共同生活をするということの価値を再認識したという事例がある。その話を聞いて、私もなるほどと納得した。皆で共同生活を前提にして、横並びの厳しい訓練とか、生活規範を課した時に、それを皆で助け合うということが必要だったらしい。個室制にしたときは、誰も助けてくれないという孤独感にさらされた。

**巽** 父親に勧められて入寮したが、「だまされた」という感覚だった。言葉巧みに入寮さ

せられて、いまとなってはよかったと思っているが、はじめのころはすごくいやだった。  
**司会** 未知の世界に入るような不安感？

**巽** いまでも衝撃的だったのは、いちばん最初に東京に来て、何も無い部屋の中でコンビニの弁当を食べていたら、見知らぬ先輩がノックをして、「いくぞ」。どこへ行くの、という感じでした。小学校からサッカーをしていて、サッカーの世界しか知らない少年だったのに、いきなり池袋に連れて行かれ、夜の大人の世界を知らされ、これが東京かという体験をしました。そうやってもまれてきて、楽しさを享受できるようになった。当初は大丈夫かなという気持ち支配的だった。4年間の寮生活は快適すぎた。人間関係も良かったし、楽しく行事も多くて1年、2年時も関わりが多く自由過ぎるくらいでした。逆に早く社会人になりたいという心境の変化もでてきた。あのころがあったから、今ががんばれているのかなと感じます。

**島田** 自由に心地よくて、でも早く社会人になりたいとい



う気持ち芽生えたのは、自由に対する恐れがあったということですか。

**巽** 就活の時期になると、いままで自由だったことが一気に制限されるような場所に行くじゃないですか、そうなったときにまずいな、と。そういう気持ちになったことがあります。

**島田** 加藤さんもうなずいていましたが、同じような気持ちになったことがあるんですか。

**加藤** 全く同じ気持ちになったことがあります。自分がだめになっていくような感覚、だから4年生になると、早く社会人になりたかったです。

**司会** 寮には理科系、文系入り交じって、さまざまな学生がいた。夜な夜ないろいろな話をしました。政治の話、彼女の話、硬軟織り交ぜて。それに、共通体験をする行事が当時がありました。合コン、合ハイ、ダンスパーティーなど。そういう体験を通じて寮生のまとまりのようなものがありました。今はそういうのはどうなんでしょう？

**寮長** 共通体験で何が一番大切かというと、大変なことを一生懸命にする経験があるうかと思うんですけど、まだ、それはないです。皆で楽しいことをするという経験は多

いですけど。

**司会** 昔はペンキ塗りとか庭の掃除をみんなで一生懸命にやったけど、今はどう？

**寮長** 3グループで上級生、下級生が一緒になって建物を掃除して、終わったら一緒に飲みに行こうというようなつながりが醸成されている。それは寮全体ではないけど定期的に感覚として味わうことのできる体験感覚なのかなあと思っています。

**司会** 個々の仲良しグループではコミュニケーションを取れるけど、寮全体でどうなのか？コロナ禍で行事が制限されているので難しいところもあるでしょうが必要ですね。

**堀内** この前「マキタ係長」で社歌を紹介するくだりがあったけど、似て非なるものでした。音階がまったく違う。

**司会** 記念誌の編集スタッフでも課題になりました、音符化しようとしています。入寮式のときには理事さんたちが社歌を歌って聞かせてそれを録音していたそうです。

**寮長** 録音したものを聞いて、それを皆で覚え直しました。

**司会** それを音声データでLINEに皆に流しました。

**巽** 僕らの時も新人歓迎会の前に先輩が歌ったへたくそな寮歌を聞いて、何回も再生して、ここはよくわからないとかいいながら覚え、皆さんの前で披露しました。

**司会** 口伝が徐々に変わっていったようです。

**島田** 徐々に元に戻すことなく変わって行ってしまった。戻すには今だし、曲想を変えたいというのであれば、公然としなければいけない。歌詞は前島信次さんの作詞。戦後の作でこれは変わってない。

**一同** 音階とテンポが変わってしまった。

**堀内** 前島先生の詩だから大事にして歌って欲しい。

**司会** 在寮時、紙の歌詞から生原先生が書かれた木版に変わりました。その時、木版の文字が微妙に変わりました。

**鈴木編集委員** 私が入寮したとき、新入生の歓迎会の時に前島先生がいらっしました。

**島田** 望月春江先生がおいでになったことは覚えているが、前島先生来訪は記憶にないです。

**堀内** 私は前島先生の講義を受けたことがあります。アラビアンナイト。試験で2つ設問があり、ひとつは分からないから、2つ目の所に山梨共修社社歌を愛唱しています



と書いた。そしたらBだった。そんな逸話があります。

**司会** YBSの深夜番組「マキタスポーツ」で山梨共修社が取り上げられたが、時間の割には高い視聴率だったようです。

**島田** ただ、山梨共修社の認知度というのは、何十年にもわたっていろいろな人材を出したり、先輩、後輩の継承もあるが、意外と山梨県内で知られていないという現実がある。これは国中郡内関係なく、全県的に「へえ〜」みたいな。よく言われますからね。  
**司会** 聞いたことはあるけど、どんな所かはわからないという反応。入寮の応募がのびてないのが現状です。

**堀内** アピールの場が少ないのか？一時は応募人数が少なすぎて、5人とか6人とか。

**巽** 現役の時、入寮選考委員長だったのですが、応募者集めに苦労した経験があります。山梨日日新聞にも(応募の事前告知を)かなり大きく出していただきました。いまは寮生のSNSを中心に、身内で声かけしている現状です。

**司会** 去年から育成講演会が行われています。一回目が山梨県人会連合会会長の清水喜彦さん。応募者を増やすため山梨共修社の認知度を上げたり、将来の建て替えを視

野に県人会の方々との接点も増やしていくような動きもあります。

**島田** 首都圏で県人会活動をしている人たちの山梨県関係の縁戚関係、後輩とかに働きかけをもっとしてもらおうと。私も県人会連合会の常任理事をしているので、清水会長に言って、高野理事長が求めているような支援をいただこうと。本日もこの後、その第2弾として、日川の出身でスポニチの社長をしている小菅君という友人がいるので、その小菅君に堅苦しくない話を学生諸君に聞いてもらおうということでお願いしようと思っているところですよ。寮生OBも一高や南高にだけ集中してもいけない。日川でここに縁がある人を増やしていったほうがいいと思います。県人会連合会も吉田と日川と一高、南高など、OBが多いところをあてにしているようだから、そのこと連動させていこうじゃないか、そのような考えを具体化していく方向に動いています。

**堀内** 共修社を卒業した人で、すばらしい実績を残した人材を紹介しては。ここに入ると立派になれることを広く知らしめたい。(笑)

**島田** いろいろな人がいることはよく知っている。

**堀内** 世間の人は寮のことをよく知らないから、広くアピールする方法を考えては。

**司会** いろいろな人間と接触できることは間違いないですね。新入寮生募集について



も「安い」ということではなく、こういう体験ができるとか、知見が得られるというようなアプリが必要ではないでしょうか。紙媒体だけでなくホームページなどでも。

**寮長** 寮に入ってみなければわからない良さというのがいっぱいあると思います。それを山梨で暮らす高校生に伝えていくのかむずかしいところです。独り暮らしをしているときは大変なことも、寮生活では解決できることもあります、というようなことをPRしながら何の媒体を使っているのか、目に付きやすい媒体でやると、伝わりやすいかなと思います。些細なことでも集団の方が便利なこともある。比較しながら独り暮らしよりも楽しいことをアピールしていくことも大切なと思います。

**島田** 藤子不二雄、石ノ森章太郎がいた「ときわ荘」の台所といったイメージがいいですね。青雲の志を持ちつつ、違う境遇のなかで助け合いながら、知恵を出し合う。それになぞらえて、ホームページで経験者の声をひろって、柱になる文章は矢崎さんに書いてもらいながら肉付けをするようにしてみたいかがでしょうか。今の時代は名前の認知がされれば、その名前でホームページを検索して調べることが当たり前だ。大学生になろうとしている子どもを抱える親世代はネット検索が中心、紙媒体にお金をかけるより、そちらに労力を集中し、検索してもらおうためのワードチョイスなど、そちらの

方に広げていくことが重要だと思う。紙媒体で刷ったものはホームページに載っているから見てください、というふうにして「消えてなくならないものにする」。紙は意味があるが横に広がっていかない。ホームページだったら管理さえきちんとすれば広まっていく。県人会連合会も紙媒体を縮小してホームページ強化にしろと言っている。世の中の受け手がどんどんなっていく世代が親であり子であるから。いま寮長が言ったような対応、皆が登場して一言ずつしゃべる。まだ見ぬ後輩のためメッセージを送って更新していく。継続して毎年続けることが重要です。紙媒体は僕らより上の世代に有効性をすごく発揮していたけれども、段々、効果が下がっていく。媒体の関わりかたが変わってきているから。

**司会** 寮のもう一つのウリは「学生自治」ではないでしょうか。ただ、時代の変化とともに中身はかなり違ってきている。

**巽** この寮に呼び込むためにはまず魅力を知ってもらうことが大切で、その前段階として認知してもらうことが大事だと感じます。そのための努力を学生全体でやってもらいながら、魅力を知って入ってきた学生が主体で魅力を広げていくというふうな流れができればいいな、と思います。若者の伝達手段はSNSが主体になってくるから、

入寮選考委員などがSNSで魅力や認知してもらおうための発信をしていくのも自治らしい形。

**司会** 寮生活を通じて感じる価値観、一体感是我々の頃と今の学生では違ってきているように思えるのですが。

**寮長** 後輩たちに、いわゆる縦社会の大切さを学ばせる。人材育成の場としてよりよい人材を輩出できるような場であること。いまの世代は縦の関係が曖昧になってきています。そこを改めて教えるとか体験してもらうことがよりよい人材を輩出していくような寮づくりをすることが上級生の思いです。自分たちより上の世代はやさしい先輩が多くて、先輩が怖いとか、いうことをきかなければというようなことを感じていなかったです。規律や奉仕の心を感じる事もこの寮の良さなのかと思っています。時代に合わせた形でやっていくのが、ひとつの自治の意味として、自身もめざす場所としてあります。

**堀内** IT化は個人の繋がりを薄くするものだという弊害を、皆さんも意識しつつあるような気がします。ここに入る人たちはアナログ感覚を身につけることで、社会に出て役立っているということ、世の中に発信してはどうでしょう。人間をアナログ

で育てる、生のやりとりでつきあう生活の良さをアピールすれば、親も安心できる。

**司会** 生々しい人間関係、それをトレーニングする場であるということですよ。

**堀内** その結果、世に名前の残るような逸材を輩出しています、ということを前面に出していくことがいいことだと思います。環境よりも中味、生身の寮をアピールしては。年代を通じての組織があるといいですね。

**寮長** 就職活動で知ったが、ゼミなどは初代から15期くらいまでの名簿があって、そこを手がかりに広げることができる。この寮にもそうした名簿があれば、寮生にとっては莫大な情報源となり、有効に活用できます。OBの連絡先がわかれば、就職時、大きくなってがかりになります。

**島田** 私は中央大学の弁論部で活動していたが、OB活動で世代間の継承をどうするかを議論しています。去年、一昨年と力を入れているのが、卒業して10年、20年の世代が企業の採用担当とかになっていたり、人事に絡むようなコースにいたりする。OB会として集まりが悪いのはこの世代。なぜなら忙しいから。その世代の人たちに後輩のために時間を取って、オンラインでも良いから説明、相談の機会に参加してくれと呼びかけたら、この3年間で増え、学生たちも大喜びしています。1人20分でもいいか

ら、私はこの業界志望ですと手を上げた学生たちに、何人かの先輩が違うアドバイスをする。全国区どこにいても参加できる。若い世代、社会のばりばりで活躍している世代と現役が対話できるイベントを、共修社のなかに取り入れたらどうか。大学OBで実際にしてみても損はなかったです。

**寮長** 学生が個人的に連絡を取れるようなシステムですか。

**島田** OB会の幹事が対策委員長となって、現役と連絡、リクエストを受けて学生にそれを打ち返す。コロナ禍の前、対面でしたときは限られた人数のみだったが、逆にコロナ禍になったら全国から参加してくれるようになった。それですごく広がりました。リアルとオンラインをうまく組み合わせながら、実施できないかなと思っています。そのためには勧進元となるOBの方がしっかりしなければいけないし、現役の意向をくみ取ることもしなければいけない。いわば相互作用が必要になってきます。卒業はしたけれど接点のない世代をどう取り込んでいくのか、次の財団運営の手がかりとしてもフォローしていく必要がある。というようなことも考えられますね。

**堀内** 世代ごとに異なる共修社の魅力を、広く世間に知らしめることが必要です。優秀な人材が集まっていること、親が寮にいたいと思えるような寮の魅力をアピール

することが大切。どのようなOBがいるのかを知ること大切。

**司会** 時間が迫ってきました。最後はまとめになります。生身の人間関係が社会へ出てからのトレーニングになるとか、昔から受け継がれているリアルな人間関係というのが共修社の良いところかなと感じています。時代のなかでコミュニケーションの手段は変わっても、根幹は変わらずということもわかりました。ただ、課題もいろいろございまして、寮生を集めること、寮の核となる部分も掘り下げていかなければいけないような気がします。きょうは2人がお見えになっていませんが、それぞれ社会の中心世代として活躍されている方々です。そうした世代の話を知うことも、今後、講演会などの形で伺えればと思います。本日はありがとうございます。



## 座談会を終えて

山梨共修社120周年記念誌 編集委員会委員長 窪田幸唯(昭和50年入寮、旧姓神津)

記念誌への寄稿者、若い世代からシニア世代のOBの方々5名に集まっていた共修社を語って頂いた。予定していた2時間はあっという間に終了。予想以上に世代間の違いが出た。一方、世代を超えて人間関係を好意的に捉える発言、寮生活の居心地の良さが共通することであった。

課題も様々指摘された。寮生を広く募集する、応募者を増やすこと、そのためには共修社に認知度を上げることが必要ではないか。

そもそも共修社の根底に流れるものは何なのか？

伝承していくべきものは何なのか？というような寮の将来に向けての大きな課題すらも感じた。山梨共修社とは何なのか？自問自答してみた。

○ 共同生活を通じた濃厚な人間関係があること。



○自治寮であること。

山梨出身であるという共通項だが、出身高校、大学はそれぞれ違う。多感な学生時代に様々な出会いを経験できる。多様性を許容しながら、お互いを認め合う人間関係。人間関係のトレーニングの場である。

これらの利点は時代を通じて変わらない点ではないか。…というように感じました。そしてこれを受け、強く思う。在寮生は寮の歴史、輩出されたOBの方々を知ること、寮生としての自覚、プライドを持つてほしい。

歴史を振り返ると、明治35年、八巻九萬翁が発起人として設立され、満田寛一先生が戦前の社監として長くご指導された戦前の共修社。戦争の空襲で焼失後、大勢の方々の方を得て復興した共修社。木造舎屋時代は生原誠三郎先生が長年社監として寮生の指導にあたられた。その後、管理が停滞し荒廃する時期を経て正常化。現在に至っている。

私たち木造の寮の世代は生原先生がことあるごとに話された共修社の成り立ち。八巻九萬先生に満田寛一先生ほかの学生が寮の設立を請願したこと、寮ができたと言

られた物語。頭の片隅に残っている。

山梨共修社の120年の歴史は偉大であります。このことを在寮生は肝に銘じてほしい。

コミュニケーションのツールがネットになるような現代。都会での個人暮らしとは違い、孤立感が薄い寮生活。集団生活の良さが山梨共修社の最大の利点であることがコロナの時代に浮き出てきた。集団生活の中で揉まれることで、他を知り、自らを知り、人生を深めていく基礎となること。こういう経験は若い時の貴重な経験である。

今回、座談会の司会をやりながら卒業生の皆さんと色々と話したのは実に楽しかった。今回寄稿いただいた方々の中で仕事のご都合で萩原弘基さん、藤巻良太さんのお二人が参加できなかったのが残念であった。どこかでお話してできる機会があることを願っている。

駅周辺から寮の周りの様子はすっかり変わった。しかし時代は変われども、「同じ思いの集いかな」であることを実感した。

同じ思いの集いの場は、これからも



## インタビュー

## 中村 一雄 前理事長

公益財団法人山梨共修社前理事長 中村 一雄



## ご自身の学生時代について

—はじめに中村さんのプロフィールをお願いします。

昭和十三年一月、勝沼生まれ、塩山育ちです。日川高校から転校し甲府一高を卒業、早稲田大学から山一証券に入社しました。

昭和三十二年から三十六年に在寮していました。昭和三十二年十二月に坂本寮ができて、二十六名の定員が五十一名になった頃です。坂本正三郎さんが私財を寄付して坂本寮を造られたと生原誠三郎先生が話しておられたことを覚えています。

—その当時の寮の雰囲気は？

坂本寮ができる前はおとなしい雰囲気で、東大生が多く、上下の関係は厳しくはありませんでした。私は大学に合格したタイミングで地元の先輩に勧められて入寮しましたが、各高校から一人ずつくらい感じだったと記憶しています。

— 当時の社監は？

生原先生が社監をされていて、毎週土曜日に来て寮生と交流しておられました。

「くろがね自動車」と「山梨中央銀行」の役員を兼務されていました。先生の喜寿のお祝いに、四十人から五十人の卒業生が集まったのは先生の人徳でしょう。そのくらい先生との関りが多い人がたくさんおられる。生原先生は素晴らしい指導者だと思います。

新寮へ建て替えの頃について

---

— 現在の建物に建て替えたのはいつでしょうか？

昭和五十九年に現在の建物が完成しました。その頃から寮の雰囲気も少し変わり始めたように感じています。

—宮下公園のところの駐車場は売却し、寮の建設資金になっていますね  
そうです。

理事になられた経緯について

—生原先生は昭和五十九年に社監を退任された後、平成元年に理事長に就任しています。平成五年に退任された生原先生の後、村松正志さんが理事長になられています。

水上達三先生が逝去された後は、生原先生が理事長で猪股進先生が社監でした。生原先生からの指名を受け理事長に就任された村松さんからは、いろいろ相談を受けましたが、それから寮との関りが始まりました。

私は昭和六十三年に甲府に戻りました。平成になり、たまたま歯科医師である村松さんの治療を受けている時、山梨共修社の決算書がよくわからないので見てほしいと依頼をいただいたことが、理事として関わるきっかけでした。

理事、専務理事及び理事長として改善されたことについて

村松理事長からの依頼で、四、五年間の決算書を点検したところ、不明点がありまし

た。その後、理事で税理士の鈴木喜一さんが時間をかけ会計記録の整理を行い、不明点の解明と修正がなされ、正しい記録を残すことが出来ました。

このような状況にあったため、私が理事長になった当初の資金繰りは厳しく、固定資産税を一期ずつ支払っていました。二年目からは年間課税額をまとめて払えるようになります、財務環境を徐々に回復させることが出来、現在に至っています。

――在寮当時、自治委員会会計担当の時に出納帳を締めた結果を報告していた記憶がありますか。

私に関わるちょっと前の昭和の終わり頃、手許現金と出納帳の記載残額が一致しないという出来事がありました。その話を聞いて、自治委員会会計の人に「会計室にある現金は即刻銀行口座に入金すること」と指導しました。それまで現金で支払いをしていた公共料金等も、金融機関に口座を作り引き落としにした。どうしてもダメなのは月末現金払い。寮生からの寮費等の金は翌日には銀行に入れる、など現金管理のルールを学んでもらってからは順調に推移しています。

—それまでの方は、ルール作りができてなかったのでしょうか。学生は決められたことは守れるが、ルールがなければ・・・。

学生には会計の実務はわからない。親から小遣いをもらっていた頃は、通帳だっけ見たことないでしょう。寮で会計が出納帳管理を行う経験は、自治委員会がある山梨共修社ならではの学びだと思います。

—駐車場の賃料が入ってきますよね。

リニューアル時に庭の一部を駐車場スペースに変え台数を増やしました。坂本寮があったところが駐車場になっています。

当初は、13台停められるのに3、4台しか埋まっていなかった。賃貸管理について、私が巣鴨駅前の業者に替えた。何年前かに駐車場を増設した際、一台当たりのスペースを広くしたため、現在は16台分ほぼ満杯で稼働しています。

長い契約者の方は三十年近くの利用者もあり立地には恵まれていると思われる、現在は年間六百万円くらいの賃料があり、寮の修理などに充てています。



—その後、創立百周年時に、寄付金で改修・リニューアルをしましたね。創立百周年記念事業の実行委員長もされています。

村松理事長からの依頼で寮に関わるようになってから、寮を訪れると設備が荒れている現実を眼にするようになりました。共用スペースのフローリングが剥がれているし、カーテンはボロボロだった。

—修繕をしていなかった？

そんな資金はなかった。リニューアルしてからは専門の掃除業者や植木屋を入れて環境整備をしましたが、草取りは学生の役割として残しました。私の在寮当時は屋根のペンキ塗りも皆でやりました。このような協働体験が寮の一体感を作るのに役立っていたように思います。

—寮の施設が荒れていた時と比べ、最近の様子はかなり良くなったでしょうか？

設備に関しては各部屋にエアコンを設置したことが大きく、また、経年劣化に対応してエアコンを入れ替えています。最近では、インターネット(Wi-Fi)の必要性の

高まりに対応して機能強化したことです。

— 資金のない状態から現在の状態まで立て直されました。

エアコンなどの設備はもとより、目に見えない配管敷設のやり直しなど建物本体の内部修繕にも取り組みました。芦沢利彦常務は古河不動産にいたので悪いところを探しては連絡をくれ、取引業者と交渉し安く仕上げてくれたので財務的にも助かりました。漏水などの不具合もほとんど修理が終わっているはず。

創立百周年の頃について

— 創立百周年記念誌について。

創立百周年記念誌「山梨共修社百年史」は五百部くらい作成し、そのうち、六十冊を県立図書館に寄贈し、県内の図書館に一冊ずつ配布するように依頼したので、県内各地の図書館で閲覧いただける状態にあると思います。

記念誌の作成に関しては私の同級で山梨日日新聞にいた三宅格雄さんがいい編集者を紹介してくれ、また、名簿に関しては早野組の米山照夫さんと早野組の女性社員が作

成に尽力してくれました。

理事長になられて

---

— 創立百周年の記念式典のときは理事長でしたね。

実行委員長の望月操三さんは顔が広く、多面にわたり活躍してくれました。

— 公益財団法人への移行について。

制度ができたので平成二十五年から移行しました。公益法人には、メリット・デメリットが様々あります。将来の共修社の在り様を勘案して、公益を選んで申請し認可してもらいました。メリットは免税です。寄付を集めるときの免税が自動的に可能となる。逆に都の管理は厳しくなるが、どっちがよかったか歴史の中で判断されますね。

寮や寮生の変化について

---

— 現在の寮周辺は当時とかなり変わってしまい驚きです。商店も変わった。ただ銭湯が一つ残っている。いつ頃から入寮して直ぐに体験する上野の花見がなくなつたのですか？

上野の花見は社会環境が変化する中で行われなくなりました。食事の提供が終わってから寮生が食事をした食堂なども姿を消してしまいました。

—新しい寮になって食事が提供されなくなったのは何故でしょう。一緒に飲食する機会が減ってしまいますね。

食事の提供がなくなったのは、以前とは異なり利用者が減ったからです。昔と比率が逆になりました。保護者の皆様からは食事提供を望めますが、寮生は賄いつきのバイトに就くなど、食事を希望しない寮生が増えたことが大きな原因でした。

炊事してもらった田中さんは既に退職され、望月操三さんの推薦で代わって雇入れた管理人の古屋力さんは、炊事が出来なかったため食事の提供は自然消滅してしまいました。

そのため、厨房機能は残し冷蔵庫や電子レンジも置き、自炊ができるような体制にしました。一時、炊飯器が17〜18台あったころもありました。

古屋さんの退職に際し飯田橋のハローワークに求人票を出しました。食事提供が可能な人をとの条件を付しました。興味を示してくれる人材はたくさんいましたが、長

時間労働の就業条件が難しいので結果としては採用を断念しました。今、管理人室が空いているのはもったいない。

### 寮の現状と将来について

---

—今は名簿が作りにくい状況です。OB会なんかもあるといいですね。いずれ建て替えもしなければ。

OBの募金だけではとても賄えないでしょう。

創立百周年記念事業のリニューアルのときは、募金部会を作り、理事、評議員をはじめとして数多くの社友・OB達から寄付をいただきました。また、村松理事長が県と折衝して、県からは五百万円を補助してもらいました。全部で四千万円位リニューアルにかかりました。

これから迎える寮の建て替えは、前回と同じように現在の土地を一部売却して資金とするのも案だろう。限られた面積での建て替えとなるので高層化も課題となるかもしれないですね。

OBの寄付金だけで建て替えを実現するのは困難だと思います。公益法人としての

環境を活かして資金調達を考えることが求められると思います。

現在の寮舎を丁寧メンテナンスして使い続けなければなりませんね。

―創立百二十年記念誌の狙うところは、「年代は違っても共通する思いがある」というようなことです。世代を超えた社友の繋がりを実感できる瞬間、それは「社歌」盆地十里」を斉唱する時だと思えます。先日のテレビ放送で共修社が取材を受けていたが、口伝傳承されてきたためか、社歌の旋律が私達の頃と大きく異なっていました。コロナ禍で社歌を斉唱する機会がなかったことも影響しているのでしょうか。深澤信三さんがピアノ音源の保存と音符化をしています。

いずれにせよ寮の生活は楽しかったよねえ。

社会人になるまでの準備期間であった寮での生活は、学生生活全般にわたり、先輩に教わりながら、後輩に教えながら過ごすことが出来ていましたね。

同じ寮にいたということで、年齢が離れていても交流できるのは楽しいですね。

―創立百二十年記念誌に寄稿された方々に集まっていたいただき座談会を開きます。

様々な記録を残していくことは大事です。小冊子はその都度作ってはいたが節目節目でしっかりした記録誌の作成は必要だと思われれます。「山梨共修社百年史」作成の折には戦前の卒寮生の方々が存命だったので、この時期にやらなければいけないと考えて、状況を活かした編集内容といたしました。

日常的に記録の整備などを行う機能環境があれば、しっかりと卒寮生の追跡ができるでしょうが、個人情報保護への対応を含め名簿をどうやって作るかが課題ですね。中村・芦沢両名で法人業務執行を担っていたころ以降は、寮生に関する書類が保存されているはずで。

私の一級下の芦沢さんにその他のことは聞けると思います。残念ながら元理事長の村松さんは既に亡くなっているので、何か分からないことは、彼に聞いてほしい。

―長時間にわたり、貴重なお話を聴き取りすることが出来ました。有難うございました。

インタビュー日 令和四年四月一八日

〈面談者〉 山梨共修社 専務理事

創立百二十周年記念誌編集委員会

深澤 信三

窪田 幸唯／前田 真一

内藤多仲先生―東京タワーリバイバル

「無骨な鉄塔」から「記憶の再生装置」へ

矢崎 秀行（昭和52年入寮）

改めて述べるまでもないが、構造建築家・内藤多仲先生（1886～1970）は我が山梨共修社の大先輩であり、日本を代表する建築家である。東京本郷蓬萊町にあった最初の山梨共修社時代の寮生であったのみならず、戦前1916年に小石川区宮下町に建てた共修社を設計。さらには太平洋戦争で焼失した建物を1954年に再建した時の設計者であった。

多仲先生（以下同）は明治19年山梨県中巨摩郡榑村（現南アルプス市曲輪田）に生まれた。旧制甲府中学、第一高等学校を経て東京帝国大学工学部造船科に入学。後に建築科に転じ卒業。1913年には早くも早稲田大学教授になっている。24年に『架構建築耐震構造論』で工学博士を取得。学生時代から数学に才を発揮していた先生は学会



で「構造学派」の佐野利器(としかた)の教え子であり、彼の後を継ぎ日本における耐震構造技術の生みの親として建築界で知られる存在となった。当時の社会情勢を考えると1923年(大正12年)9月1日、関東大震災が起こっており、10万5千人の死者を出した東京の惨状を目の当たりにした彼は地震多発国日本における耐震構造建築の重要性を改めて認識することになった。前述の耐震構造論の博士論文も大震災の翌年東京帝国大学に提出されたものである。

昭和29年(1954)に多仲先生が設計した木造二階建ての旧山梨共修社は、84年まで使われていたので多くの卒業寮生にとっても懐かしい存在だ。昭和52年に入寮した私も入寮時に多仲先生のお名前を教わった。畳敷きのベッドやその上に機能的に取り付けられた本棚、コンパクトな押し入れや作り付けの机。八畳一間の二人部屋や四畳一間の個室。過不足ない合理的な部屋であった。もっとも設計者の名前とともに上級生から教わったのは「山梨共修社は内藤先生が、戦後戦犯容疑者を収監した『巣鴨ブリズン』の部屋をモデルにして設計した」という興味深い話である。この話は半ば冗談のように当時の共修社内には伝わっていて、私も面白く聞いた。この原稿を機にその

真偽を調べてみたのだが、多仲先生の業績の中に巢鴨プリズンも少しも出てこない。けれども先生はおびただしい数の建物の構造設計をその頃担当していたので、巢鴨プリズンも専門の構造設計のみ担当したのかもしれない。例えば彼の代表的な建築としてよく取り上げられる日本興業銀行本店も構造設計は多仲先生だが、意匠デザインは東京帝大の先輩・渡辺節(せつ)である。

ともあれ戦前戦後、多仲先生は日本の耐震構造や構造設計のパイオニア兼トップランナーとして名声を博することになる。41年には日本建築学会会長、43年には早稲田大学理工学部長に就任している。

多仲先生は、山梨共修社の礎を作った八巻九萬先生(1852〜1929)を直接知る世代だ。

1916年小石川区宮下町の山梨共修社を設計した時はまだ30歳。「学校を出たばかりのまだ経験にも乏しい、かけ出し者の設計にもかかわらず快く同意下されて、其新築

の竣成した時、よく出来たと温顔を以ってお褒め下さった時のうれしきは、自分に取って無上の光栄として今日忘れられぬ記憶です」とかつて文章で述懐している。その文章のタイトルは「慈父八巻先生」。八巻九萬先生の古里山梨出身者への思いやりと温かさを感じさせるとともに、多仲先生自身の謙虚な人柄と若くして設計した山梨共修社への愛着を直截に感受させる短い言葉だろう。実際、彼は共修社で開かれた社友会に何度も出席し、自分が設計した自治寮で後輩たちと晩年まで親しく交わったという。

山梨県庁の敷地の中に「山梨県近代人物館」という施設があり、その中には県出身の偉人として八巻九萬先生と内藤多仲先生の展示もある。八巻先生の所では、私たち山梨共修社の設立者としての功績が明示されている。とてもうれしいことだ。

第二次大戦後の多仲先生の活躍は、やはり日本各地に建設した電波塔や観光塔に集約されるだろう。その数、実に69箇所。世に言う《塔博士》の誕生である。そして何といても昭和33年(1958)12月に開業した東京タワーがその代表である。芝公園に立つ東京タワーは、元々は芝の増上寺の境内。この塔を建設したのは戦前は「新聞王」、

戦後は「メディア王」と呼ばれた産経新聞の創立者・前田久吉（ひさきち）（1893～1986）である。

1950年代は日本のテレビ放送の黎明期で、NHKが53年2月テレビの本放送を開始、同8月には民放初のテレビ局として日本テレビが開局した。そして東京放送（TBS）が55年、57年には日本教育テレビ（テレビ朝日）と次々に開局していく。

こうした状況下、広域をカバー出来る高い電波塔の必要は緊急を要し、東京タワー（日本電波塔）が建設された。構造設計の第一人者と当時目されていた多仲先生に白羽の矢が立つのは当然の成り行きで、既に54年に名古屋テレビ塔、56年には大阪に二代目通天閣の構造設計と塔建築の実績もあった。この3塔に、別府タワー・さっぽろテレビ塔・博多ポートタワーを加え、彼が50～60年代手がけた鉄塔は、後に「タワー6兄弟」と呼ばれることになる。

東京タワーは高さ333メートルで当時世界一。1889年パリ万国博覧会の時にギユスターブ・エッフェルによって建設され、パリのシンボルとして有名だったエッ

フェル塔が312メートルだったので東京タワーはそれより21メートル高かったことになる。

経済白書が「もはや戦後ではない」と宣言したのが昭和31年（1956）。それから2年後に完成したこの塔はまさに戦後日本の象徴になった。竹中工務店の現代技術と日本が培ってきた優れたとび職人の職人技が融合したこの塔は、工期はわずか1年半。それで世界一の電波塔が完成したのである。しかも使われた鋼材量はエッフェル塔の半分。それで耐震強度も十分な電波塔を建設できたことに多仲先生ら技術陣の誇りがあった。

現代のように高層ビルが林立する東京と違って、芝公園に出現した333メートルの東京タワーは東京のどこからでも良く見えた。新聞テレビのマスコミも大きく取り上げ、この塔の人気の後押しをした。多くの国民はわずか21メートルとはいえ、有名なパリのエッフェル塔を抜いて世界一になったことも誇りに思ったことだろう。

当時の日本社会の状況を庶民の哀歓をうまくすくいとって描いた映画に『ALWAYS三丁目の夕日』という映画があった。2005年山崎貴監督(原作は漫画家の西岸良平)の作品だ。

大ヒットして数々の映画賞を受賞、テレビ放映され22.5%の高視聴率だったので記憶の方も多いだろう。この時代設定がまさに東京タワーが着工して完成する50年代の末。場所も東京の下町、東京タワー近くの町という設定だった。青森から集団就職で上京した少女、しがない自動車修理工場の親父、売れない小説家等々。まだ終戦から12年ほどの下町を舞台に喜怒哀楽が入り交じり哀歓こもごもの庶民の暮らしが描かれる。この映画では日に日に高さを増す東京タワーがもう一人の「主人公」だった。折につけ高さの違うタワーが登場する。建設中のタワーに向かって走る路面電車。三輪自動車ダイハツミゼットを運転する鈴木オートのおやじ(堤真一)は「東京タワーだ。完成すれば世界一になる!!」と誇らしげに叫ぶ。豊かではなかったけど、明日への希望があった時代の雰囲気がかまく描かれていた。

実際、完成した東京タワーは人気を博した。開業の1959年1～12月の1年間で入場者は513万人。昭和29年(1954)文京区千石4丁目に再び多仲先生設計で再建なった二代目山梨共修社に入寮した先輩たちも、その多くがこの郷土出身建築家の代表作に登ったことだろう。共修社のダンスパーティーや合同ハイキングがいつから始まったかは分からないが、仲良くなった彼女を誘って東京タワーにデートに行った先輩も多かったかもしれない。

ところが、国民人気に反して東京タワーに対する建築専門家や美術家の評価は必ずしも高いものではなかった。建築学会の機関紙『建築雑誌』がタワーがオープンした1958年12月号でこの塔について座談会を組んだのだが、当時建築界の第一線にいた気鋭の建築家たちの東京タワー評は一樣に手厳しい。「ものすごく背の高い化け物」「エッフェル塔を真似た」東京タワーはもの悲しい「造形が美しくない」。さらには「構造屋さんがやるとああいふふうになる」といった意見さえあった。つまり要は「意匠デザイン性がない」といった指摘。わが国を代表する工業デザイナーの柳宗理(1915～2011)(民芸運動を主導した柳宗悦の長男)は「エッフェル塔やドイ

ツ・シユトウツトガルトのテレビ塔に比べ何の新しさも美しさも感じられない」(柳宗理エッセイ集)と酷評した。

私は1975年大学入学のために上京したのだが、タワー完成から17年、確かにその頃には開業時の熱狂は冷め、何か東京タワーは“時代遅れの近代遺産”の雰囲気をもとっていた。当時の最先端は、新宿西口淀橋浄水場の跡地に次々に建っていた高層ビル群であり、同じモダニズム建築でもフランスのル・コルヴィジェの薫陶を受けた坂倉準三や前川國男の建築に光が当たっていた。さらには64年の東京オリンピックの貝殻型の国立代々木競技場で名を挙げた丹下健三やその門下生たち(槇文彦、磯崎新、黒川紀章)らが“メタボリズム”などを掲げて建築と美術や哲学との連動を唱えながら国際的にも華々しく活躍していた。

そんな中であって多仲先生の東京タワーや大阪の典型的な下町・天王寺に建つ通天閣は、いかにもあか抜けないイメージで、タワーに蠟人形館、通天閣には“ビリケン像”という大衆路線を取ったこともあり、時代から取り残されたイメージが付着していっ



たのである。

さらに70年代後半から80年代、アカデミズムの世界には「ポストモダン」の大波が襲う。この反近代主義、反近代合理主義を正面から掲げる現代思想は、元々フランス現代哲学から派生したものであり、しかも建築をテーマにして盛んに論じられ世界に広まった。80年代の日本のバブル期にかけ東京の街にはこの考え方を基にした一見奇妙な建物がニョキニョキと立つことになった。近過去なので年配の方には記憶に残っているだろう。いずれにしても、構造設計を純粹化し、装飾を排して費用と効率と用途を追い求めて建てられた東京タワーはこの風潮の中、いかにも分が悪く、実際のところ入場者も漸減していった。70年代から言われていたが「東京タワーはお上りさんと外国人が行く観光名所。東京の人間は行きはしない」と言われるようになったのである。

しかしながら、日本のバブルが最盛期を迎えた1989年を境に、この風向きが大きく変わる。

東京タワーが再度脚光を浴びたのは、この年照明デザイナーの石井幹子(もとこ)(1938-)が東京タワーのライトアップデザインを手がけてからだといわれている。オレンジ色の高圧ナトリウムランプを装着した投光器148台、エメラルドグリーンのイルミネーション696灯。無骨と言われたタワーは東京の夜空にくっきりと浮かび上がった。「一本一本の鉄骨は、全体として大樹のように組みあがり、空に向かって仄かに溶け込んでいく。その姿は妖しいほどに美しかった」(建築評論家・細野透)。

芥川賞作家で都市小説の第一人者日野啓三(1929-2002)は「タワーのライトアップは、品があって聖なる気品さえ帯びている」とその短編で記している。さらに石井幹子自身も「最近のもので感動したのはリリー・フランキーさんの小説『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』(2005)ですね。手術をして動けないオカンが、オトンとボクの前で、手鏡に映った東京タワーを見て、きれいやねと微笑むシーン。人と人の結びつきといったシーンに、暗示的に東京タワーが用いられるようになってきたことに、私は東京タワーがランドマークとしての意味を持ったのかなということを感じますね」(『東京タワー50年』)と語っている。多彩なタレント、リ

リー・フランキーのこの小説は「本屋大賞」を取り、200万部を超すベストセラーになったのでお読みの方も多いだろう。そしてこの小説と同じ年に公開された前述の『ALWAYS三丁目の夕日』である。

無骨な構造建築と揶揄されてきた東京タワーは、照明デザインによって復活したのである。あるいは時間の経過の中で、市井の人々がこの塔に日々の小さな物語を付着させ、それが結晶化することによって再び命が吹き込まれたというべきだろうか。

私たちの大先輩・多仲先生が心血をそそいだこのタワーは、現代において様々な視点からその意味の読み解きが続いている。その中で興味深かったのは、東京タワーは東京の裏鬼門（西南）に建つ塔で、2012年に完成した東京の鬼門（東北）の「東京スカイツリー」と並び立ちツインタワーとして巨大都市東京を守っているという説である。確かに芝の増上寺は江戸の裏鬼門の押さえとして江戸幕府が作ったものだし、江戸城の鬼門の押さえは上野寛永寺。その延長線上にある、東京スカイツリーは記せずしてそうした役割を負うのかもしれない。不思議な感じがするが、こうした民俗学的な読

み込みさえされるようになった。

いずれにしても、建築から64年を経た東京タワーは、確かにリバイバルした。『ALWAYS三丁目の夕日』監督の山崎貴は、この映画のヒットの理由は「作品が日本人の『記憶再生装置』になったことだ」と発言している。確かにそうなのだろう。そしてこのことは映画のもう一人の主人公東京タワーにもそのまま当てはまる。

復興日本の象徴として完成した東京タワーは、様々な毀誉褒貶を経て評価の上でも復活した。それはおそらく計算尺を片手に多仲先生が成した堅実な構造設計と、とび職人をはじめとする職人の誠実な仕事ぶりのたまもので、根底にそうした質実さがあったからこそ、照明デザインを身にまとって現代に復活することができたのである。しかも私たち日本人の記憶の再生装置という重要な役割をともなって復活したのである。

2021年の東京オリンピックでは、盛んに「レガシー（記念碑的遺産）」と喧伝され

だが、はたして時間の経過に馴染んで人々に愛される遺産が作れたのかどうか。国威発揚が前面に出すぎていなかっただろうか。

多仲先生の建築は、どこことなく親しみやすさや庶民性があったと思う。東京タワーにしても、いかにも大阪的な通天閣にしても。そういう建造物には日々生きる人々が個人個人の“小さな物語”を仮託しやすい。50年代の日本の復興という“大きな物語”の象徴であった東京タワーは繊細な照明デザインをまとうことで、一見無骨な姿の下に隠されていた「すっきりしたモダンデザインの美しさ」を私たちに改めて教えてくれた。さらには市井の人々の喜怒哀楽と言おうか、哀歓を込めた“小さな物語”の舞台としての要素も取り入れながら、今や人々の心の琴線に触れる存在となったのである。

戦後、山梨共修社に入寮した私たちは、東京タワー設計者多仲先生がこの学生寮も設計してくれたと先輩たちから誇らしげに紹介された。確かに多仲先生は、日本近代建築史に名を残し1962年には文化功労者にも選出されている。けれども、こうした名誉叙勲だけが先生の偉大さを証明するものではない。タワー建築から64年経って、

多くの日本人が「大切な己の記憶を呼び起こす縁（よすが）」としてタワーを仰ぎ見るようになった。そうしたことはどの建物でも起こることではない。その時々流行やトレンドに乗ることも重要かもしれないが、人々の記憶再生装置になることははるかに大切で、とても人間らしいことである。

多仲先生は時代が一巡し「日本の伝統職人のような構造建築家」と評されるようになった。計算尺を使った虚飾のない愚直な仕事。そうしたことが根底にあったからこそ、その仕事が再評価される時代を迎えることができたのだろう。

山梨共修社の後輩たちも将来社会の様々な分野で活動されると思うが、こうした多仲先生の歩みを時には思い出し、心の糧にさせていただきたいと思う。



## 新型コロナウイルス感染の出来事

荻原 政行（昭和47年入寮）（旧姓宮澤）

私が前任の芦沢利彦氏から常務理事を引き継いだのは、2020年7月でした。当時、パンデミックとなった新型コロナウイルス感染の影響により、都内の大学ではオンライン授業が主流化し、学生アルバイト就業機会も激減、大学生の貧困・孤立も問題化し始めていました。山梨共修社では寮生の経済的負担を考慮し寮費の一部を免除する支援策を2020年度の1年間実施していました。

都内では新型コロナウイルス感染が徐々に蔓延し始め、感染対策（未然防止と寮内発生時の二次感染防止）もその頃はまだ他学生寮（和敬塾）と情報交換を行う程度の比較的生ぬるい認識で、対応マニュアルも一応格好だけは整えていたくらいでした。

こうしたなか、2021年8月7日の夜中、突然私の携帯電話に3年生の寮生から



「荻原さん、新型コロナウイルスのPCR検査で陽性反応が出てしまいました」との報告が入った時は、正直頭が真っ白になり、同時に「寮内で、もしクラスター（集団感染）が起きたらどうしよう」とあせりと不安で私自身パニックに陥りました。学生寮という集団グループ内の対応として何から始めてよいのか？保健所等とはどのように連絡を取り合えばよいのか？大変戸惑いましたが、とにかく常務理事の私自身が今落ち着いて、出来ることから始めようという考えに切り替えました。

たまたま、私の家族のうち地元の病院で看護師をしている長女と臨床検査技師（主に感染症専門）の次男が帰省中だったことから、それに私の家内も加わり早速相談して、荻原家で寮の具体的な対策を練り始めました。私が関係者への連絡・指示、他の3人が対策考案・マニュアル作成と作業を分担して事を進めました。よくしたもので「3人寄れば文殊の知恵」です。

まず寮内で対応すべきこととして

①感染陽性者（以下「陽性者」という）の隔離方法

- ② 寮内濃厚接触者有無の確認
  - ③ 陽性者の当面の食料・飲物の手配支援
  - ④ 寮内に陽性者発生の事実やトイレ・洗面所・シャワー等の陽性者と他寮生との使用分離の周知(寮内SNS活用)
  - ⑤ 保健所への連絡とホテルへの療養移動手配
  - ⑥ 寮内でのクラスター防止等(消毒・検温・マスク)を、項目ごと整理して寮生に分かりやすい対応フロー表作成に着手
- 一方私は陽性者へ電話フォロー、寮長・副寮長へ「陽性者支援と二次感染防止措置」の電話指示、理事長・保護者・施設関連業者への経過報告も同時に行いました。

高野理事長へ状況を報告すると、「こういう事態にあってこそ、陽性者に対し他寮生が支援し声を掛け合って対応していくことで、山梨共修社の存在意義を寮生全員に再認識させていただきたい」との勇気付けられる言葉を頂戴しました。あらためて法人・寮生による協働態勢、そして学生自治による課題解決という山梨共修社の設立基本理念の大切さを痛感させられました。

翌日の8月8日、文京区保健所から寮管理責任者である私に電話連絡があり、寮の建物見取り図(トイレ・洗面台等の場所)、部屋割り表、二次感染防止の具体策等細かくヒヤリングされました。寮内クラスター発生を懸念して担当の保健師さんも相当ナーバスになって、都内でのコロナ感染の急速な拡大で保健所がパニックに陥っている様子が電話のやり取りの中で感じとれました。その後、今度は私が保健所に陽性者のホテル療養への移動手続きをお願いすべく電話を何回も掛け直しましたが、話し中でなかなか繋がらなかったことから保健所にFAXを使って伝達、ようやくホテル療養移動の確約まで漕ぎ着けることができました。また、改訂した「新型コロナウイルス感染症対策・マニュアル」を印刷して寮の玄関に張り出すとともに、SNSで寮生全員に通知して徹底するように指導しました。

初めての寮内陽性者発生も、お陰様で寮長(当時は古屋岬さん3年生)以下自治委員会を中心に、寮生も協力的に迅速な対応をしてくれた結果、二次感染さらにはクラスターを未然に防げたことは本当に良かったです。そして、その後寮内では、月に1回程

度の頻度で陽性者が発生していますが、常務理事と連携して寮生もその都度的確に対処してくれ、クラスター発生には至っていないことは何よりです。

新型コロナウイルスによるパンデミックは、本来ならば楽しく、有意義な大学生活を一変させてしまいました。山梨共修社が創立120周年を迎えた2022年、3年近くも経った今でも収束する気配は見えません。多くの大学生は経済的負担増大を余儀なくされ、また学生仲間との対面接触や交流も制限され、社会的・精神的孤立に追いやられています。そのような時だからこそ、山梨共修社という同郷学生寮の存在意義があらためて寮生たちに見直されたのではないかと私は考えます。寮の共同生活という経済的メリットは勿論ですが、寮生同士の「只いま」「お帰り」というちょっとした挨拶で、お互いにどこか癒され心が和み、だれかに声をかけてもらえているという心の安んじ感がそこにはあります。

いずれ彼らも社会に出て、何十年かしてからパンデミックの学生時代を思い出すとき、山梨共修社で送った寮生活は人生アルバムの中でのどのように映っているのでしょうか。

うか？その時こそ、社歌「盆地十里」(1番目の歌詞に「胸傷つきて帰り来し 同い思いの  
集いかな」)はいつまでも社友の心のなかで、煌めいているのではないでしょうか。



## 「廊下の匂い」

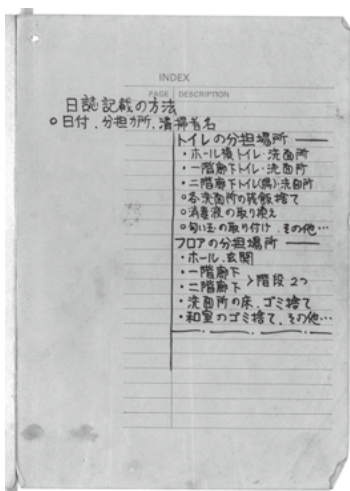
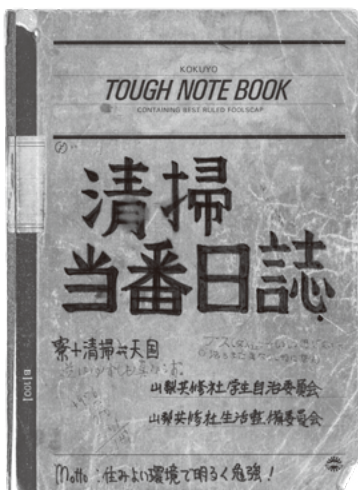
前田真一（昭和50年入寮）

清掃当番日誌（清掃日誌）を手に取ると、廊下の匂いととも、天逝した友を含めた寮生の顔や懐かしい思い出が次々と脳裏に浮かんでくる。

木造の寮の玄関からホールを過ぎて廊下を渡り始めると、少し黴が混じったようなワックスの匂いに気がつく。奥の角を曲がり坂本寮になるとはつきりとする。

寮母の田中さんが心を込めて作ってくれた夕食がカレーライスのとときは、食堂から美味しそうな匂いが漂ってきた。社友会の後はビールの匂いがしたし、ダンスパーティーの晩では、女子大生の白粉や寮生のオーデオロンの残り香がしたことだろう。

僕は入寮当初、毎晩が修学旅行の旅館のように、はしゃいでいた。同期の部屋に遊び



に行き、ラジカセで流行歌を聴かせてもらい、自分とは違う書籍が並ぶ本棚に感心した。大学の勉強について相談したことはほとんど無かったが、確かに何か大事なことを話し込んでいたと思う。

ある先輩からは合ハイ後のデートの助言を受けた。ハチ公前で合唱曲の楽譜を読む格好をしながら待ち、相手が近づくと手を挙げ明るく「やあ！」と挨拶すべしと。初陣でその通り実行し、見事に撃沈されてしまった。

当時、学生自治による生活整備で、1号室から順に毎日交代でトイレや洗面所、フロアや廊下など共用部分の掃除を行い、清掃日誌を記入し、次の部屋に回していた。月に一度は床油をひき、夏には庭の草取りを全員で行った。

日誌に作業記録として記入する部屋もあれば、自己表現の場としてエッセイや漫画など描く人もいて、自由だった。それに触発され、次に自分達の番では何を書こうかなど構想を練った寮生もいたことだろう。



普段挨拶する程度の先輩や後輩の日記を読むと、今まで知らなかった人柄や想い入れが分かり、楽しんで回覧した。

「誰もが、未だ何者でもないが、何者かになろうとしていた」学生時代に、僕は猶予期間があるのではないかと考えていたのか、と今更ながらに気付いた。なにかモヤモヤしていた日常において、自分は一人ではなく互いに繋がっている仲間がいるのは嬉しかった。

清掃当番日記は、寮のコミュニケーションを保つ一つ的手段として、大事な役割を果たしていた。

## 山梨共修社とは？

鈴木利秋（昭和51年入寮）

創立120周年にあたり、原点に立ち返って山梨共修社を考えてみたい。120年前といえば、明治35（1902）年、『山梨県史』通史編5（近現代）をひも解いてみると、社に関する記述がある。

社が設立される10年前の県人情報雑誌『山梨郷友会雑誌』によると、当時、大学に直結する高等中学の入学試験の英語は上級学校進学への必要条件であった。明治期の大学教育が外国語の原書を使用していたことによるが、本県で学んだ英語力では入学試験合格は困難で、上京しての準備が必要であり、また小学校高等科卒で高等商業学校入学を希望する者についても英語の下稽古のための学校入学を勧めていた。こうした事情が尋常中学校中退者や上京者増の一因となっていたが、その一方で学校を渡り歩いて定まらず、資金や歳月を徒に費やしてしまう者も多いという問題もあった。他県では江戸

下屋敷を上京者の宿舎としたが、江戸時代のほとんどの時期に旧幕府領であった本県にはそのような施設は存在せず、他県と比べて上京者が少ないともいわれていた。

そうしたなか本県出身の学生ための寄宿舎である山梨共修社が八巻九萬先生により設立される。今でも山梨共修社理事長室入口に八巻九萬先生の胸像が掲げられている。『山梨県史』資料編19(近現代6)には、八巻先生名による「財団法人山梨共修社拡張主意書」が収められているが、それによると「同郷諸先輩に請い、其贊助を得て(中略)必要の経費に充る」とあるように、多大な支援のなかで共修社が設立され、さらに大正6(1917)年には新築移転を迎えている(なお、八巻先生の伝記は『郷土史』かがやく人々』第7集にも収められている)。

120年にも及ぶ長い歴史。途中、戦火による焼失という災禍を受けたが、昭和29(1954)年に再建。時代は昭和から平成、そして令和へと大きく変わったが、「自重、廉恥、信義、節操」が強調された「綱領」(『山梨共修社百年史』44頁)は共修社を貫く基本的な考え方であり、今後とも受け継いでいきたい。

最後に私事で恐縮だが、筆者は1970年代後半を共修社で過ごした。今振り返っても、胸が締め付けられるような切ない思いは何度かしたが、嫌な思い出は浮かんでこない。むしろ楽しかった思い出の方が多かったように思える。様々なことを学んだ。酒の飲み方・ダンスの講習会とダンスパーティー・社友会等々、枚挙に遑がない。さらに、生涯の友人を得ることもできた。これは大きい。大学時代、社に閉じこもるなということで、サークル活動にも参加したが、その活動と合わせて、得るものは大きかったと考える。変化の激しい時代ではあるが、不易流行を大切に、共修社を受け継いでいってもらいたい。



理事長	高野孫左衛門	(株)吉字屋本店 代表取締役社長
専務理事	磯村 洋之	磯村行政書士事務所 所長
常務理事	加藤 吉一	(株)コンピューターマインド 代表取締役
事務局	深澤 信三	いずぎ家具店 店主
理事	荻原 政行	元山梨中央銀行 取締役
理事	勝俣 重信	(株)勝俣商店 代表取締役社長
理事	栗原 信	社福)信和会 理事長
理事	島田 敏男	NHK放送文化研究所 研究主幹
理事	古屋 賀章	(株)山梨中央銀行 代表取締役専務
理事	山中 伸一	学法)角川ドワンゴ学園理事長 元文部科学省事務次官
監事	前田 真一	ヒューマン経営事務所 所長 中小企業診断士
監事	古屋 文彦	(株)山梨中央銀行 常務取締役

現在の役員(理事・監事 2022年6月改選)

評議員	深澤 文治	元山梨日日新聞社取締役
	八巻 哲也	元山梨県職員
	斎藤 隆	元山梨中央銀行執行役員
	西島 茂徳	元韭崎商工会職員
	秋山 博	秋山薬局店主
	窪田 幸唯	農業
	牧野 裕彦	甲府市職員
	宇野 誠	大月市教育長
	桑原 清貴	(株)ダビンチ・ポッターガ 代表取締役社長
	矢崎 秀行	元読売新聞社記者、評論・写真家
	勝村 良一	スタジオ権(株) 代表取締役社長
	中村 泰正	元首都圏国分(株) 職員

現在の評議員(2021年6月改選)

政官界等	田邊治通(通信大臣)、内田常雄(厚生大臣)、満田寛一(大審院判事)、山本三郎(建設事務次官)、吉田富士雄(大蔵省理財局長・サントリー副社長)、山中伸一(文部科学事務次官)
学 界	雨宮育作(東大名誉教授)、内藤多仲(早大名誉教授)、前嶋信次(慶大教授)、篠原登(東海大学長)、浅川栄次郎(早稲田実業校長・早大教授)
財 界 等	田邊加多丸(勸業銀行頭取・東宝会長)、樋口実(三菱地所社長)、浅尾新甫(郵船社長)、水上達三(三井物産会長)、日向方斎(住友金属)、野口二郎(山梨日日新聞社社長)、猪股進(東部ガス社長)、風間久四郎(テレビ山梨社長)、三神良三(東京会館社長)、望月春江(日本画家)

主な社友(卒寮生順不同)

初 代	明治35年～ ～昭和49年	満田 寛一(元大審院判事) 廣瀬 久忠(元厚生大臣)
	昭和49年～平成01年	水上 達三(元三井物産(株)会長)
	平成01年～平成06年	生原誠三郎(元山梨中央銀行取締役)
	平成06年～平成14年	村松 正志(歯科医師)
	平成14年～令和02年	中村 一雄(株千代田取締役)
	令和02年～	高野孫左工門(株吉字屋本店社長)

歴代理事長

初代	明治35年～昭和05年	満田寛一(元大審院判事)
2代	昭和05年～	小田切栄作(元陸軍砲工学校・法政大学教授)
3代		雨宮育作(元東大農学部教授)
4代	～昭和29年	内藤丈夫(弁護士)
5代	昭和29年～昭和59年	生原誠三郎(元山梨中央銀行取締役)
6代	昭和59年～	猪俣進(元東部ガス社長)
7代		安間一勇(安間マーケティング研究所)
8代	～平成14年	久保島好之(元三和テック)
9代	平成14年～令和02年	芦沢利彦(元古河不動産)
10代	令和02年～令和04年	荻原政行(元山梨中央銀行取締役)
11代	令和04年～	加藤吉一(株コンピューターマインド社長)

歴代社監(常務理事)

- 一、盆地十里に花は散り 西の山辺に春逝けば  
胸傷つきて 帰り来し 同じ思いの集いかな
- 二、山は青葉にうたう国 野は若草におどる国  
あゝ夏去れば今もなお 燃ゆる原始の陽の色よ
- 三、秋にさびれし梧桐の 梢に夕日うつろえば  
あゝ甲斐の国ふるさとの おとずれ恋うる若き身や
- 四、廃兵院の冬木立 あおぎめ果てし細月や  
来たれ五十の胸の火に 凍りし涙とかせ友

イントロ(アカペラで)

「山梨共修社社歌 eins zwei drei」

F Dm F C7  
ぼんちいじゅうりに はなはあちり〜

F Dm B<sup>b</sup> C7 F  
にしのおやまべに はるゆけば〜

F Dm B<sup>b</sup> C7  
むなきず つきて かえりこし〜

F Dm B<sup>b</sup> C7 F  
おなじい おもいの つどいかな

## 山梨共修社 創立百周年記念事業

山梨共修社の環境整備(建物の補修、内外装、電気設備等の改修工事)

・百周年記念誌「山梨共修社百年史」の発行

・卒寮生名簿の作成

## 創設100周年記念事業

募金の名称	財団法人山梨共修社創設100周年記念事業募金
目的及び用途	「山梨共修社建物整備計画」(内外装リニューアル資金)
事業費総額	4,000万円
募金目標額	2,500万円
県の補助額(要望額)	500万円
募集金額	1口1万円(理事・社友・在寮生父母及びこの事業に賛同する篤志家・企業とする)
	1万円未満のご寄付もありがたくお受けします。
	*ご寄付が1万円を越える場合には確定申告により所得税の還付請求が受けられます。
募集期間	自 平成13年 8月1日 至 平成15年 7月31日
申込方法	同封の振込用紙に所要事項をご記入の上、最寄りの金融機関の窓口でお振込ください。

## 税制上の優遇措置

この寄付金につきましては、特定公益増進法人への寄付として所得税の寄付金控除の対象となり、寄付金(年間総所得金額等の25%が上限)が年間1万円を越える場合には、その越えた金額がその課税対象所得から控除されます。手続きに必要な証明書は財団法人山梨共修社よりお送りいたします。

## 山梨共修社の沿革

## ◆明治三十五年

山梨共修社は明治三十四年、当時東京帝國大学の学生であった清田寛一(大審院判事)、第一高等学校生徒であった田辺治道(通信大臣)、八巻良三(医学博士)の三氏が異出身学生の為に寄宿舎の建設を提案し、在寮生人の長老であった八巻九藏氏(代議士)の賛助を得て、在京諸先輩より寄付を募った。明治三十五年二月に、本郷区駒込藤栗町の二階建て家屋を買収して在京学生を収容し自治制をもって出発した。

## ◆大正二年

財団法人山梨共修社となる。

## ◆大正六年

根津嘉一郎氏をはじめとする有志からの寄付を得て、社出身の内藤多伸工学士(工学博士)早大名誉教授、元理事副会長)の設計で小石川区宮下町に二十八室五十六名収容の新宿舎を建築する。

## ◆昭和二十年

震災により焼失する。



- ・記念式典及び懇親会の開催
- ・財団法人の寄付行為ならびに寮則の改正
- ・記念事業を行うための募金

平成十四年十月十三日(日) 会場・古名屋ホテル

当時の制作されたパンフレット

平成13年11月吉日

各位 殿

財団法人 山梨共修社  
理事長 村松 正志  
100周年記念事業実行委員会  
委員長 中村 一雄

**財団法人 山梨共修社 創設100周年記念事業募金のお願い**

謹啓、時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、山梨共修社は明治35年2月に創設され、草創期を経て来る平成14年には創設100周年を迎えることとなります。これもひとえに皆様方の深いご理解と温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

本家は、創設100周年を迎えるに当たり、将来的な展望をし、新たな伝統を築きつつ輝騰する決意であります。多様化する社会情勢を見据えて、魅力あふれる学生寮としての不動の基盤を構築しなければなりません。

この度、当寮の更なる向上を目指し、『山梨共修社の整備計画』を策定致しました。この計画実現には、全理事が一致協力して事に当たる所存ですが、在寮生のご父母をはじめ社友、関係各位のご協力なくして成就しがたい実情にあります。

つきましては、経済情勢の厳しい折から、誠に恐縮に存じますが、何卒山梨共修社の事情をご理解の上、右記による記念事業の趣意にご賛同いただき、格別のご支援とご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

尚、この『山梨共修社の整備計画』と並行して100周年記念誌の発行と記念式典の開催も計画しておりますので記念誌の参考資料のご提供及びご投稿、記念式典のご参加等も合わせてお願い申し上げます。

敬 具

◆昭和二十九年  
在京・在米有志の協力で、町再建され、二十六名の大学在学生在を収容する。

◆昭和三十三年  
坂本正三郎氏により坂本家が寄贈され、五十一名収容の実現が実現された。

◆昭和五十九年  
寮会の老朽化のため、所有地の一部を売却して鉄筋四階建て四十九名収容の新寮舎が建築された。



本年までの卒業生は八百名を数えるまでとなっている。

蓬萊町・宮下町時代の著名先輩

浅尾 新南、堀内 茂秀、池田東太郎、内田 常雄、小田切 賢、尾谷 一良、風間久四郎、栗原 長雄、新海 英一、田辺加多丸、内藤 多伸、野口 二郎、生原誠三郎、林 忠美、日向 方彦、前島 信次、満田 寛一、満田 文彦、水上 達三、三神 良三、望月 春江、吉田富士雄

山梨共修社 創立百十周年記念事業



- ・ 山梨共修社の環境整備（高速インターネット接続工事）
- ・ 記念式典、講演会及び懇親会の開催



財団法人  
山梨共修社  
創設 110周年

平成24年5月27日(日)

記念ゴルフ大会	境川カントリー倶楽部
記念式典	ホテル談露館
講演会	NHK解説主幹 島田 敏男氏
懇親会	



・記念ゴルフ大会 境川カントリークラブ  
 平成二十四年五月二十七日(日) 会場・ホテル談露館  
 記念講演 NHK解説主幹 島田敏男氏「日本政治の行方」

当時の制作されたパンフレット

### 山梨共修社の沿革

◆昭和二十九年  
在京・在県有志の協力により再建され、二十六名の大学在学学生を取容する。

◆昭和三十三年  
坂本正三郎氏により坂本寮が寄贈され、五十一名取容の寮舎が実現された。

◆昭和五十九年  
寮舎の老朽化のため、所在地の一部を売却して鉄筋四階建て四十九名取容の新寮舎が建築された。  
本年までの卒業生は八百名を数えるまでとなっている。

◆大正二年  
財団法人山梨共修社となる。

◆大正六年  
根津嘉一郎氏をはじめとする有志からの寄付を得て、社自身の内藤多仲工学士(工学博士)早大名誉教授、元理事岡倉忠の設計で小石川区宮下町に二十八室五十六名取容の新宿舎を建築する。

◆昭和二十年  
戦災により焼失する。

◆明治三十五年  
山梨共修社は明治三十四年、当時東京帝國大学の学生であった満田寛一(大審院判事)、第一高等学校生徒であった田辺治道(通信大臣)、八巻良三(医学博士)の三氏が京出身学生の為に寄宿舎の建設を提案し、在京県人の長老であった八巻九萬氏(代議士)の賛助を得て、在京諸先輩より寄付を募った。  
明治三十五年二月に、本郷区駒込蓬萊町の二階築家屋を買収して在京学生を取容し自治制をもつて出発した。

蓬萊町・宮下町時代の著名先輩

浅尾 新甫、堀内 茂秀、池田東太郎、	内田 常雄、小田切 賢、尾谷 一良、
風間久四郎、栗原 長雄、新海 英一、	田辺加多丸、内藤 多仲、野口 二郎、
生原誠三郎、林 忠美、日向 方齊、	前島 信次、満田 寛一、満田 文彦、
水上 達三、三神 良三、望月 春江、	吉田富士雄

**実行委員会メンバー**

実行委員長	望月操三
顧問	中村一雄、米山照夫、芦沢利彦
副委員長	新井宣澄、堀内拓三
委員	小泉 真、古屋賢章、古屋 力、代永博幸、深澤文雄、田中保夫、堀内康雄、山下正人、中山保楯、岩田紀生、高野孫左工門、勝俣重信、志村栄成、野田修作、中澤 豊、深沢文治、石川東洋

**財団法人 山梨共修社**

住所 〒112-0011 東京都文京区千石4-9-1    電話・FAX 03-3944-4488



坂本正三郎氏像



満田寛一氏



八巻九萬翁像



生原誠三郎氏



水上達三氏



広瀬久忠氏

「山梨共修社百年史」より

山梨共修社寮歌

前場信次作詞

一

盆地十里に花は散り  
西の山辺に春逃げば  
胸信つきて悴り来し  
同じ思いの集いかな

二

山は青葉にうたう園  
野は若草におどる園  
あゝ夏去れば今もなお  
燃ゆる原始の陽の色よ

三

秋にさびれし榎桐の  
梢に夕日 うつろえば  
あゝ甲斐の園ふることの  
おとずれ恋うる若き身や

四

廃兵院の冬木立  
あおごめ果こし細月や  
来たれ五十の胸の火に  
凍りし涙 とがせ友

戊午正月 笠原信三郎書

## あとかき

思いがけず120周年記念誌に関わることとなった。「山梨共修社百年史」をはじめ共修社の歴史をあらためて見直してみた。諸先輩方のご苦勞に触れることができた。

さらに、現在の共修社にも実際行ってみて現役寮生の様子も垣間見ることができた。

時代は変われど、変わらない共修社らしさとは何かを編集を通じて考えた。集団生活の中身は時代とともに変化してきている。これからも変わっていくことだろう。

この記念誌は「記録すること」が目的だ。コロナ禍の寮生活の記録でもある。若い世代はいつの日かこの記念誌を目にして何を思うだろうか？そして、この記念誌は未来へのメッセージでもある。

「寮生よ、よく遊び、よく学べ！ そしてよく語り合え！」

山梨共修社 創立120周年記念誌編集委員会一同

---

編集委員会委員長 窪田 幸唯(昭和50年入寮)  
 編集委員 前田 真一(昭和50年入寮)  
 編集委員 鈴木 利秋(昭和51年入寮)  
 編集委員 矢崎 秀行(昭和52年入寮)  
 担当理事 荻原 政行(昭和47年入寮)



この記念誌の内容はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.eps1.comlink.ne.jp/~kyoshu/>



山梨共修社 創立百二十周年記念誌

令和四年十一月一日 発行

発行 公益財団法人山梨共修社

東京都文京区千石四―九―一

印刷 株式会社サンニチ印刷

甲府市北口二―六―一〇







